令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	橋本　剛

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

今年度は、初めて担当する講座で手探りの部分もあったが、数多くの「当事者」の声を聞きながら、長崎観光を体系的に理解できるようプログラムを構成した。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

現在「観光地」となっている世界遺産が「まだ観光地ではなかったころ」から提唱を続けていた人、現在観光まちづくりの最前線にいる人、長崎ゆかりの「文物」を作り出した人などをゲストスピーカーとして迎え、「国の光を観る」ものである観光の本質である「ゼロからイチを生み出す」力をプログラムを通じて体感し、長崎観光の体系的理解とともに、その原動力となるクリエイティビティの向上を図るものとした。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・数多くの「成功体験を持つ人々」の声を聞き、それが最初は小さなものであったことから、「手の届くものなんだ」と実感できたであろうことは成果だと思う。
・ゲストスピーカーの都合で授業の順番を入れ替えることがかなりあったのは反省点。
・また、成り行きでロサンゼルスや東京と結んでオンラインでの講義を試みたが、これは恒常的に入れ込んでもいいように感じた。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
長崎観光入門	23S	選択	20	79.8	2	10.0%	9	45.0%	8	40.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%
長崎観光入門	23L	必修	18	88.5	8	42.1%	11	57.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
長崎観光入門	23S	4.7	4.5	4.5	3.1	42.0分	4.6
長崎観光入門	23L	4.1	4.1	4.6	3.9	38.8分	4.2
初年次セミナー	24S	*	*	*	*	*	*
初年次セミナー	24L	*	*	*	*	*	*
初年次セミナー	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブ・ラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングについては、最終回において、グループに分かれて「短大さるく」のアイディアを生み出した

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度は、
①ゲストスピーカーの日程確保を早めに確定させること
②オンライン講義を最初からプログラムに組み込むこと

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	太田　智子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

全体的に自己評価では学習意欲はあるものの理解度は低かった。座学ではスライドの要点をB4サイズ1枚に直して空欄を記入する形式をとったが、語句を記入するだけで満足してしまい、十分な理解に及ばなかったと考えられた。その点を見直し、説明を聞き自分で理解するという本来の大学での学びにつなげることが課題である。調理実習では、実践を通して調理技術や知識を身につけるための内容としたが、こちらが高校までに習得していると想定したレベルと解離がみられた。その差をいかに埋めるかが課題である。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

子どもの食と栄養は、食に対する意識を高め、保育現場における実践力を養うことを目標とする。今年度の同様に講演会や演習を実施し、さらにアクティブラーニングを取り入れることで学生が自主的に学ぶ機会を増やしたい。
調理学は、一方向授業の割合が多くなるであろうが、可能な限り双方向授業を取り入れながらスムーズな進行ができるよう心がけていきたい。学生が自ら学ぶ姿勢を身につけ、実際の調理と関連付けて考える力をつけることを目標とする。
調理学実習Ⅰは、調理の基礎を身につけ、調理技術向上の意欲をもつ学生を増やすことを目標とする。丁寧に個別指導を行い、調理に苦手意識を持たないような対応を心がけたい。また、提出物の重要性を伝えていく。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

子どもの食と栄養では、スライドを穴埋め形式にした資料を配布した。穴埋めの数は少なくし、しっかり解説を聞いて理解できるようにした。また、授業内容に苦手意識を持たないよう、動画や食育クイズなどを取り入れた。
調理学はスライドを全て配布し、解説を聞き理解することに重点を置いた。実際の調理と結びつけられるように具体例を多く挙げて解説を行った。小テストおよびgoogle classroomの確認テスト(解答は任意)を実施し、単元ごとに自身の理解度がわかるようにした。
調理学実習Ⅰでは、昨年度に比べて料理を作る前に習得しておくべき基本的な操作や技術に時間を割いた。示範は最低限にし、調理時間を多くとれるようにした。実習内容は1週間前に配布し、予習した状態で実習に臨むよう指導し実践力の向上を図った。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

子どもの食と栄養は、昨年度に比べて理解度が上がった。動画やクイズ、離乳食体験などは好評であり、次年度も取り入れていきたい。
調理学は内容の多さから進度が速くなってしまい、理解度が低かった。次年度は栄養学や食品学と関連する部分についてはスマート化を図り、要点を絞った内容にする。
調理学実習Ⅰは、開始時の基礎力が想定より低かったため予定を変更して実施した。調理科出身もいれば全くの初心者もおり、どこにレベルを合わせていくかが課題である。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
学外実習Ⅰ	23S	選択	32	79.4	7	21.9%	10	31.3%	12	37.5%	3	9.4%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの食と栄養	23Y	選択	68	73.7	4	5.6%	28	39.4%	27	38.0%	7	9.9%	0	0.0%	1	1.4%
基礎数理	24S	選択	26	62.4	4	14.8%	2	7.4%	3	11.1%	13	48.1%	4	14.8%	0	0.0%
長崎食育学	24S	必修	27	77.7	8	28.6%	9	32.1%	4	14.3%	6	21.4%	0	0.0%	0	0.0%
調理学	24S	必修	27	67.9	6	18.8%	2	6.3%	2	6.3%	19	59.4%	3	9.4%	0	0.0%
調理学実習Ⅰ（調理実験を含む）	24S	必修	27	74.3	4	14.3%	4	14.3%	11	39.3%	7	25.0%	2	7.1%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
学外実習総合演習	23S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅰ	23S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23S	*	*	*	*	*	*
子どもの食と栄養	23Y	4.5	4.5	4.5	3.6	55.9分	4.5
基礎数理	24S	4.4	4.3	4.5	3.8	49.2分	4.2
長崎食育学	24S	4.7	4.5	4.6	4.0	38.1分	4.7
調理学	24S	4.3	3.8	4.4	3.4	76.5分	4.0
調理学実習Ⅰ（調理実験を含む）	24S	4.0	3.3	4.6	3.6	62.2分	3.7

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

子どもの食と栄養でアクティブラーニングを2回実施した。「子どもを取り巻く食の問題発見」、「問題の原因を考察」、「問題解のための指導案作成」に取り組んだ。指導案は個人での作成としたが、作成段階において学生間での話し合いや教員からの助言などコミュニケーションを図りながら問題解決策を考えることができた。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

子どもの食と栄養は、今年度と同様に動画やクイズなどを取り入れて授業への関心を高めつつ、実践力を身につけられるような内容とする。他の科目と重複する部分があるので、担当教員と連携しながら授業内容のスマート化を図りたい。
調理学も他科目との重複部分についてはスマート化を図り、要点を絞り時間をかけることによって理解度を高めたい。
調理学実習Ｉは、まず家庭科で既に学んでいるような簡単な実技試験を行い、学生の基礎力を把握してから内容を検討したい。調理のレベルは学生の平均に合わせ、必要に応じて補講などを取り入れる。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	太田　美代

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

○「給食経営管理論」は、小テストへの取組が不十分な学生が多く、授業に向かう姿勢ができていない学生が見られた。前年度に比べS評価が少なくB評価が増えた。
○「栄養教育指導論実習Ⅱ」は、昨年に比べC評価が減り、B評価が増えた。学生の学習意欲も4.2から4.5へ、理解度も4.1から4.3へアップした。
○「給食経営管理論実習Ⅱ」では、繰り返し実習を行うことで、衛生管理の基本や大量調理の配慮点が少しずつ身についてきており、学生自身もその手ごたえを感じているようである。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

○専門職としての基礎的な力を養うため、栄養士実力認定試験の短大平均を上回る者60％以上、及びＡ認定50％以上を目指す。
○１年生に新設科目として国語表現法と基礎数理を設け、専門的な科目の学修のための基礎学力の向上を図る。２年生も「チャレンジタイム」として定期的に過去問にあたり調べ学習を勧めるとともにeラーニングシステムを導入し活用を図る。
○後期は、グーグルクラスルームの活用も行う。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

○１年生の授業ではスライドとワークシートを活用し、まとめで過去問にもあたらせて知識の定着を図る。またリアクションペーパーを使って個別対応を行い、学習への意欲を喚起する。
○２年生は「チャレンジタイム」での修得度別グループ学習に加え、eラーニングの活用を推進し、主体的な学習を促す。学力に関して心配な学生も多いので、可能な限り個別にきめ細かな対応で支援する。
○実習演習の授業においては、グループや個人での自己評価、グループ同士での相互評価を行う場面を設定し、認め、励ますことを通して学びに向かう主体的な態度を育成する。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

○「給食経営管理論」は、小テストへの取組が不十分な学生が多く、授業に向かう姿勢ができていない学生が見られた。昨年に比べ授業外の学修時間が４６．７分から６６．４分に増えているにもかかわらずC評価者が増えたので、実習科目で復習しながら授業を進めたい。
○「栄養教育指導論実習Ⅱ」は、最初に卒業生が作成した指導媒体のサンプルを見せ、文字の大きさやイラスト・グラフの示し方などを具体的に学んで演習に臨んだ。学生の全体的な満足度は昨年度より１ポイント上がったが、理解度が３点台にとどまった。
○「給食経営管理論実習Ⅱ」では、繰り返し実習を行うことで、衛生管理の基本や大量調理の配慮点が少しずつ身についてきた。学外実習に臨む素地は養うことができていると思うが、成績評価は必ずしも満足できるレベルに至らなかった。後期の学外実習総合演習でフォローしたい。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養教育指導論実習Ⅱ	23S	選択	32	75.5	1	3.1%	4	12.5%	23	71.9%	4	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
給食経営管理論実習Ⅱ	23S	選択	30	77.3	2	6.7%	10	33.3%	15	50.0%	3	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅰ	23S	選択	32	79.4	7	21.9%	10	31.3%	12	37.5%	3	9.4%	0	0.0%	0	0.0%
基礎数理	24S	選択	26	62.4	4	14.8%	2	7.4%	3	11.1%	13	48.1%	4	14.8%	0	0.0%
長崎食育学	24S	必修	27	77.7	8	28.6%	9	32.1%	4	14.3%	6	21.4%	0	0.0%	0	0.0%
給食経営管理論	24S	必修	27	74.6	4	14.3%	5	17.9%	8	28.6%	11	39.3%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
栄養教育指導論実習Ⅱ	23S	4.6	4.6	4.4	3.6	95.6分	4.5
給食経営管理論実習Ⅱ	23S	4.5	4.3	4.5	3.9	61.0分	4.4
学外実習総合演習	23S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅰ	23S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23S	*	*	*	*	*	*
基礎数理	24S	4.4	4.3	4.5	3.8	49.2分	4.2
長崎食育学	24S	4.7	4.5	4.6	4.0	38.1分	4.7
給食経営管理論	24S	4.4	4.3	4.4	3.4	66.4分	4.3

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・実習系の科目については、計画的に実施することができた。講義を中心とする「給食経営管理論」についても「大量調理施設衛生管理マニュアル」に関する部分で一部学生に説明させる場面を作り、主体的に学習に臨む姿勢を促した。学生からは、「斬新な方法で驚いたが、自分が説明したところは頭に入った。」という感想が寄せられた。
・実習の最後にKJ法を応用して、すべての学生が自ら「何を学んだか」「どんなことが身についたか」を考える機会を設けた。グループでまとめて発表することで、反省点や授業の成果を共有することができた。
・定期試験で苦慮する学生には、個別に指導対応を行った。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

今年度末で退職予定のため、次年度に関する目標・計画は無し。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	桑原　真美

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度は学生の基礎学力の低下および授業に対する学修意欲がやや低いことが課題であった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

今年度は学生が意欲的に授業に取り組めるようにするため、e-ラーニングシステム(Webアプリ)を用いた授業を計画・実施する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

授業の冒頭でe-ラーニングシステムにより小テストを実施する。小テストの結果は成績評価には反映せず、学生の理解度の把握のために利用する。学生の解答状況はリアルタイムで把握が可能であるため、正解率の低い問題についてはその場で解説を実施する。また、学生には小テストの結果をもとにその場で復習をする時間を設けることで、学習内容の理解度向上を目指すとともに、意欲的に学習に取り組む環境を作る。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

単独で担当した食品衛生学および栄養学Ⅰにおいて、学生の学習意欲がやや上昇したが学生の理解度は大幅に低下した。成績評価においては、昨年度と比較して平均点に大きな差はみられないが、栄養学Ⅰにおいては69%の学生がC評価という結果になった。また、食品学基礎実験においてはF評価の学生が2名であった。F評価の学生はレポートの未提出が目立った。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
学外実習Ⅰ	23S	選択	32	79.4	7	21.9%	10	31.3%	12	37.5%	3	9.4%	0	0.0%	0	0.0%
基礎数理	24S	選択	26	62.4	4	14.8%	2	7.4%	3	11.1%	13	48.1%	4	14.8%	0	0.0%
長崎食育学	24S	必修	27	77.7	8	28.6%	9	32.1%	4	14.3%	6	21.4%	0	0.0%	0	0.0%
食品学基礎実験	24S	選択	27	78.2	8	28.6%	10	35.7%	6	21.4%	1	3.6%	2	7.1%	0	0.0%
食品衛生学	24S	必修	27	74.1	8	28.6%	3	10.7%	6	21.4%	10	35.7%	0	0.0%	0	0.0%
栄養学Ⅰ（基礎栄養学）	24S	必修	27	70.0	4	13.8%	3	10.3%	2	6.9%	20	69.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
学外実習総合演習	23S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅰ	23S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23S	*	*	*	*	*	*
基礎数理	24S	4.4	4.3	4.5	3.8	49.2分	4.2
長崎食育学	24S	4.7	4.5	4.6	4.0	38.1分	4.7
食品学基礎実験	24S	4.4	4.4	4.5	3.8	117.8分	4.5
食品衛生学	24S	4.5	4.5	4.7	3.8	61.2分	4.5
栄養学Ⅰ（基礎栄養学）	24S	4.5	4.6	4.5	3.6	66.4分	4.4

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

オフィスアワー時に学生からの質問はなかったが、授業時や授業後などにその都度対応した。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度も学生の授業の理解度向上にむけて取り組む必要がある。学生の理解度が低い点については、基礎学力の向上や関連する科目の担当教員との連携が必要である。特に、「基礎数理」および「栄養士の科学」の担当教員との情報共有を図り、理解度の向上に効果的な授業内容を検討する。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	古賀　克彦

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

①　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（栄養教育指導論Ⅰ）
②　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（臨床栄養学Ⅱ）
③　アクティブラーニングの更なる、レポート提出状況改善（臨床栄養学実習）
④　実習先評価の向上。学内実施の場合は内容の充実。（学外実習Ⅰ）
⑤　一部授業内容の見直し（講師の変更等を含めて）（長崎食育学）

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（栄養教育指導論Ⅰ）
②　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（臨床栄養学Ⅱ）
③　アクティブラーニングの導入、レポート提出状況改善（臨床栄養学実習）
④　実習先評価の向上。学内実施の場合は内容の充実。（学外実習Ⅰ）
⑤　一部授業内容の見直し（講師の変更等を含めて）（長崎食育学）

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

①　重要な事項や栄養士実力認定試験に頻出な部分をまとめた教材（A3サイズ2ページ）を作成・配布。また試験前に試験のポイントを15回の授業とは別途に解説。（栄養教育指導論Ⅰ）
②　重要な事項や栄養士実力認定試験に頻出な部分をまとめた教材（A3サイズ2ページ）を作成・配布。また試験前に試験のポイントを15回の授業とは別途に解説。（臨床栄養学Ⅱ）
③　献立の展開の授業4回分にアクティブラーニングを導入。レポートの提出率改善に関しては未提出者に積極的な呼びかけを実施。（臨床栄養学実習）
④　十種先から指摘の多い献立作成能力向上を目指した指導の強化（学外実習総合演習）、および個別指導の強化。（学外実習Ⅰ）
⑤　一部授業内容の見直しと、外部講師の調理実習の実施（長崎食育学）。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①　昨年度から授業内容の改善を行ったが、成績下位グループと上位グループが二分する結果となった。（栄養教育指導論Ⅰ）
②　昨年度から授業内容の改善を行ったが、成績下位グループの人数はおよび再試験受験者は減少した。（臨床栄養学Ⅱ）
③　授業の満足度は昨年と同様でたかかかった。提出物に関しては1名を除き良かった。（臨床栄養学実習）
④　学外実習Ⅰの実習先の評価は良好であった。
⑤　一部外部講師の見直しと、自身担当分の講義（3回）の見直しを行い、授業の満足度は向上した。（長崎食育学）。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
臨床栄養学Ⅱ（食事療法の原理）	23S	選択	32	72.1	2	6.3%	6	18.8%	12	37.5%	12	37.5%	0	0.0%	0	0.0%
臨床栄養学実習	23S	選択	33	79.1	11	33.3%	5	15.2%	10	30.3%	7	21.2%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅰ	23S	選択	32	79.4	7	21.9%	10	31.3%	12	37.5%	3	9.4%	0	0.0%	0	0.0%
基礎数理	24S	選択	26	62.4	4	14.8%	2	7.4%	3	11.1%	13	48.1%	4	14.8%	0	0.0%
長崎食育学	24S	必修	27	77.7	8	28.6%	9	32.1%	4	14.3%	6	21.4%	0	0.0%	0	0.0%
栄養教育指導論Ⅰ	24S	必修	27	76.0	7	25.0%	9	32.1%	4	14.3%	7	25.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
臨床栄養学Ⅱ（食事療法の原理）	23S	4.4	4.3	4.4	3.9	59.0分	4.4
臨床栄養学実習	23S	4.6	4.4	4.4	3.8	72.2分	4.4
学外実習総合演習	23S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅰ	23S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23S	*	*	*	*	*	*
基礎数理	24S	4.4	4.3	4.5	3.8	49.2分	4.2
長崎食育学	24S	4.7	4.5	4.6	4.0	38.1分	4.7
栄養教育指導論Ⅰ	24S	4.5	4.3	4.4	3.8	30.0分	4.4

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
今年度より、臨床栄養学実習における献立の展開の授業（4回分）、および学外実習総合演習における献立作成（2回分）においてアクティブラーニングを導入した。 オフィスアワーに関しては随時実施しており、学外実習の課題に関する相談を中心に2年生の相談が多く見られた。 1年生に関しては学業面に関しては試験前以外はあまり相談は無かった（休退学の相談はかなり行った）。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
①　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（栄養教育指導論Ⅰ） ②　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（臨床栄養学Ⅱ） ③　アクティブラーニングの更なる、レポート提出状況改善（臨床栄養学実習） ④　実習先評価の向上。学内実施の場合は内容の充実。（学外実習Ⅰ） ⑤　一部授業内容の見直し（講師の変更等を含めて）（長崎食育学）

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	江頭　万里子

１．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

学生のアンケートの平均点は、昨年度に比べ少し悪かったが、全ての項目が、４以上だったので、特に問題は無かったと思われる。
（１）秘書実務２については、教員の教え方が4.9、その他は全て4.8で高評価だったので、反転授業に好感を持ったものと思われる。
（２）前期に近隣からのバスマナーに関する苦情が無かったことは、マナー学における取り組みも貢献しているものと考える。
（３）秘書概論では、秘書に興味のない学生が意欲的に授業を受けられるように、授業法を今以上に工夫が必要。

２．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1)目標：授業の満足度を上げる。
　　授業内容を理解し、良好なバスマナーを実践できるようにする。

(2)改善計画：マナー学では、資料を作り直し、より分かりやすい形にする。

３．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

マナー学では、授業を分かりやすくするために、資料をパワーポイントと同じ画面とした。
　昨年と同様、毎週各自マナーの実践目標を立て、出席確認時に振り返りを行わせた。

４．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

（１）授業の満足度を上げることを本年度の目標としていたが、満足度4.4の秘書実務２を除き、マナー学、秘書概論では全体的な満足度が向上していた。
（２）近隣住民の方から、バスマナーに関する苦情が無かった。

課題：全ての科目で教員の教え方、学習意欲が共に４点代であるにも関わらず、授業の理解度がマナー学と秘書実務２で３点代であった。これまでは、ほとんどの科目で４点代であり、３点代は稀であったため、原因を考え授業方法を見直して行きたい。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
秘書実務２	23L	必修	18	87.1	8	42.1%	9	47.4%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
病院実習	23L	選択	0	87.1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23L	必修	18	85.0	5	26.3%	14	73.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
マナー学	24S	必修	27	85.0	11	39.3%	11	39.3%	3	10.7%	3	10.7%	0	0.0%	0	0.0%
秘書概論	24L	必修	13	83.5	2	15.4%	8	61.5%	2	15.4%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	24L	必修	13	82.5	2	15.4%	7	53.8%	4	30.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
マナー学	24Y	必修	62	87.2	32	51.6%	18	29.0%	9	14.5%	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
秘書実務２	23L	4.6	4.5	4.6	3.7	55.0分	4.4
キャリアアップセミナー２	23L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*
病院実習	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ１	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ２	23L	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23L	*	*	*	*	*	*
マナー学	24S	4.6	4.2	4.6	3.7	29.0分	4.2
秘書概論	24L	4.8	4.6	4.9	4.0	55.7分	4.6

キャリアアップセミナー1	24L	*	*	*	*	*	*
プレゼミナール	24L	*	*	*	*	*	*
マナー学	24Y	4.7	4.4	4.5	3.5	38.6分	4.5

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

ロールプレイング・ディスカッション等を用いたアクティブラーニングを行った。

基本的に在室時は訪問可としているので、オフィスアワー以外の時間に訪問を受けた。内容は、就職に関すること、検定試験に関することだった。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

目標：学生の理解度を４点代に戻す。
　　良好なバスマナーの実践

改善計画：ディスカッションの時間を増やし、学生自信が考える時間を増やす。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	濵口　なぎさ

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

・演習系科目は、提出物の内容に関する全体的なフィードバッグは適切な時期に実施できたが、個別のフィードバッグは十分に行うことができなかった。1年生のタッチタイピングの技能習得は、確認テストの期日を明確に示したことにより、予定よりも早く習得できた。
・医事コンピュータは履修者1名であったため、理解度を確認しながらきめ細かい指導を行うことができた。
・講義系科目については、アクティブラーニング的手法を用いることが十分できたとは言えず、次年度はグループディスカッションの導入を検討したい。
・情報処理演習は、履修者が多く授業内容に興味関心が薄い学生が複数いた。コースが異なるため、授業以外の時間に指導をすることが難しく、提出物未提出の学生へのフォローができなかったためか、初めて欠点者が複数発生した。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・演習系科目については、一定レベル以上の知識と技能の修得を目指していることから、学生一人一人に対する適切できめ細かいフォローとフィードバックを心がける。
・講義系科目については、教員による一方的な説明とならないよう、グループディスカッション等学生と意見交換ができる機会を増やす。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・演習系科目では、丁寧な提出物チェックと学生の理解度把握に努める。
・講義系科目では、双方向の授業になるよう心掛け、学生の理解度を把握するためにも意見収集の方法を工夫する。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・「ビジネス文書作成１」は例年通りタイピングの習熟度によるクラス分けを行った。初心者クラス・経験者クラストも7名ずつと少人数であったため授業中も目が行き届き、きめ細かい指導ができた。提出物については、Wordのコメント機能を活用して一人ずつきめ細かく添削を行うことができた。
・「ビジネス文書作成３」は応用力を伸ばす課題に取り組ませることで、多種多様なビジネス文書を作成する経験を積ませることができた結果、学生たちの満足度向上につながったと感じている。
・「情報処理演習」は、昨年と同様授業内容に関心が薄い学生がいたこと、欠席後のフォローが十分にできず、指示された課題に取り組まない学生もおり、、BやC評価となる学生が多くなっている。学生の興味を引き付ける工夫が必要である。
・「情報検索」は講義科目ではあるが、授業内で演習課題に取り組ませたり、調査結果のプレゼンテーションを行わせたが、著作権などの法律・制度に関する内容に取り組む時間が2回しかなかったため、学生のアンケートでは理解度が他の項目よりも低くなったと考えている。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネス文書作成３	23L	必修	18	89.2	12	63.2%	5	26.3%	1	5.3%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%
医事コンピュータ	23L	選択	0	89.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
病院実習	23L	選択	0	89.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23L	必修	18	85.0	5	26.3%	14	73.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報処理演習	24S	必修	27	83.1	9	31.0%	12	41.4%	5	17.2%	3	10.3%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネス文書作成１	24L	必修	13	85.4	3	23.1%	5	38.5%	5	38.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報検索	24L	必修	13	87.9	6	46.2%	6	46.2%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	24L	必修	13	82.5	2	15.4%	7	53.8%	4	30.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ビジネス文書作成３	23L	4.7	4.8	4.9	4.3	44.0分	4.7
医事コンピュータ	23L	*	*	*	*	*	*
キャリアアップセミナー2	23L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*
病院実習	23L	*	*	*	*	*	*

インターンシップ１	23L	＊	＊	＊	＊	＊	＊
インターンシップ２	23L	＊	＊	＊	＊	＊	＊
ゼミナール	23L	＊	＊	＊	＊	＊	＊
情報処理演習	24S	4.4	4.3	4.5	3.8	35.2分	4.4
ビジネス文書作成１	24L	4.9	4.9	4.7	4.1	55.7分	4.9
情報検索	24L	4.9	4.8	4.6	3.9	60.0分	4.7
キャリアアップセミナー１	24L	＊	＊	＊	＊	＊	＊
フィールドワーク	24L	＊	＊	＊	＊	＊	＊
インターンシップ１	24L	＊	＊	＊	＊	＊	＊
インターンシップ２	24L	＊	＊	＊	＊	＊	＊
プレゼミナール	24L	＊	＊	＊	＊	＊	＊

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・情報検索では、根拠となるデータを元にしたレポート作成を行ったのち、その概要を発表させた。要点を要領よくまとめて発表する経験として効果的だった。
・オフィスアワー以外の空き時間で、欠席した学生のフォローや就活指導や面接練習、個人的な相談などに対応した。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・演習系科目では、授業時の指導及び提出物のきめ細かいチェックにより、学生一人一人が各科目で目標とするレベルに達するように心がける。
・講義系科目では、今年度よりも発表機会を増やし、グループ活動も取り入れて学生たちが能動的に授業に参加するような内容となるよう授業計画・教材の見直しを行う。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	森　弘行

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

・情報リテラシーでは、新しい項目が増えた結果、それぞれを取り扱う時間が短くなり、満足度の低下につながったと思われる。
・統計処理の満足度は前年度より改善したものの、理解度は十分とは言えない。
・情報処理演習では初めて単位未修得者が出た。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・情報リテラシーの授業満足度の向上を図る。
・統計処理は、データサイエンス基礎として全学共通科目となるため、教材等を含め全面的な見直しをする。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・情報リテラシーは、ビデオ視聴の回数を減らし、教科書の掲載順に沿った解説を行い、教科書にマーカーを記すようにした。
・データサイエンス基礎は時間割の関係で幼児教育学科の学生が大量に履修登録しており、教室の定員を超えることとなったため、Excelおよび数学での選抜を実施する。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・情報リテラシーでは、改善の結果、全体的な満足度が3.4から4.1へ向上した。
・データサイエンス基礎では、履修者の選抜を行うこととしたが、幼児教育学科の学生の大半が選抜を受けず、また履修登録した学生も全く出席することなく脱落となった。
・情報処理演習では授業の欠席が多い学生が目立ち、その学生の課題提出が滞り、F評価となる者が出てきたため、提出期間の延長および指導を行った。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
データサイエンス基礎	23S	選択	1	65.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
データサイエンス基礎	23L	選択	7	85.1	3	42.9%	2	28.6%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
プログラミング	23L	選択	3	77.3	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
病院実習	23L	選択	0	77.3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23L	必修	18	85.0	5	26.3%	14	73.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
データサイエンス基礎	23Y	選択	2	85.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
情報処理演習	24S	必修	27	83.1	9	31.0%	12	41.4%	5	17.2%	3	10.3%	0	0.0%	0	0.0%
情報リテラシー	24L	必修	13	73.8	2	15.4%	2	15.4%	4	30.8%	5	38.5%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	24L	必修	13	82.5	2	15.4%	7	53.8%	4	30.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
データサイエンス基礎	23S	5.0	5.0	4.0	3.0	120.0分	5.0
データサイエンス基礎	23L	3.0	3.4	4.4	3.1	51.4分	3.3
プログラミング	23L	*	*	*	*	*	*
キャリアアップセミナー2	23L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*
介護・救急法	23L	*	*	*	*	*	*
病院実習	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ1	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	23L	*	*	*	*	*	*

ゼミナール	23L	*	*	*	*	*	*
データサイエンス基礎	23Y	3.0	3.0	3.0	3.0		3.0
情報処理演習	24S	4.4	4.3	4.5	3.8	35.2分	4.4
情報リテラシー	24L	4.1	3.9	4.3	3.9	34.6分	4.1
キャリアアップセミナー1	24L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	24L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ1	24L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	24L	*	*	*	*	*	*
プレゼミナール	24L	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・オフィスアワーの利用はないが、時間外でも柔軟に対応。
・ゼミナールではグループでのディスカッションやプレゼンテーションを実施。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

学生への適切なフィードバックおよびフォローを心がける。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	荒木　正平

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

1．今年度アンケートの結果をみると、全体的な満足度等については前年度と大きな変わりはない。「特別な教育的ニーズの理解とその支援」の授業については、授業時間が半期のみとなったが、講義と併せてグループ演習までを実施した。満足度といった点では大きな問題はないが、やや詰め込みすぎた印象はあり、今後は全体のバランスを見ながら調整を進めたい。ゼミナール活動については、全体としては学生の意欲が高く取り組んでくれたが、一部の学生については、やはり意欲・満足度が気になるところである。引き続き個別での対応を心掛けたい。

2．実習・その他授業との連動を意識して取り組むことができた。主担当ではない科目との連携・情報共有を進め、学生がより実習に集中して取り組める環境を準備していく必要がある。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1．担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上
　まず、学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。演習については、すでに実施しているアクティブ・ラーニングのブラッシュアップを図りつつ、その他の演習方法の採用も検討し、より充実した授業実施に向けて取り組む。
2．実習指導体制の確認と内容の充実
　実習指導授業の見直しを継続する。実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、教員間の協力・情報共有体制の強化を行う。
3．ゼミナール活動の充実
　まずは学生ごとに異なる能力・意欲・希望に対応できるよう、徹底した個別支援・指導の実施を継続する。また、学科教員間で連携しながら、より適切なゼミ活動の実施に向けた検討を進める。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

1．学習習慣の定着については、ほぼ毎回実施のミニレポートの内容の充実と試験の結果から、一定のレベルに達していると評価できる。演習についても、個別・グループごと作業いずれも実施できた。
2．実習指導授業の見直しを行い、特に分かりにくかった施設との情報共有体制の強化についての改善を実施した。
3．ゼミナール活動については、今年度も学生ごとに異なる希望テーマに沿って個別支援・指導の実施を継続した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1．アンケート結果の全体的な満足度等について確認すると、「社会的養護Ⅰ」は前年度と大きな変わりはない。一方で、演習について細部の調整を実施した「特別な教育的ニーズの理解とその支援」については、講義内容は大きく変えていないものの0.3ポイントの上昇が見られた。
2．実習日誌の書き方や、提出物に関する手続きに関して、説明用のパワーポイントの修正等行えた。その他授業との連携についても、引き続き学生が実習に集中して取り組める環境を準備していく必要がある。
3．ゼミナール活動については、今年度も学生全体に高い意欲をもって取り組めている。後期も引き続き個別での最適な対応を心掛けたい。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
特別な教育的ニーズの理解とその支援	23Y	必修	68	82.6	13	19.4%	36	53.7%	14	20.9%	3	4.5%	1	1.5%	0	0.0%
保育実習指導Ⅰ	23Y	選択	68	93.5	50	76.9%	13	20.0%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅰ	23Y	選択	67	82.6	2	3.1%	47	73.4%	13	20.3%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	23Y	選択	68	95.4	55	84.6%	5	7.7%	5	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅲ	23Y	選択	2	95.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
社会的養護Ⅰ	24Y	選択	62	86.1	27	43.5%	22	35.5%	8	12.9%	5	8.1%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
特別な教育的ニーズの理解とその支援	23Y	4.6	4.6	4.6	3.6	44.7分	4.6
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅲ	23Y	*	*	*	*	*	*

保育実習Ⅲ	23Y	＊	＊	＊	＊	＊	＊
教育実習	23Y	＊	＊	＊	＊	＊	＊
ゼミナール	23Y	＊	＊	＊	＊	＊	＊
社会的養護Ⅰ	24Y	4.7	4.6	4.7	3.7	44.7分	4.6
保育実習指導Ⅰ	24Y	＊	＊	＊	＊	＊	＊

＊…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

〈アクティブラーニングについて〉
特に演習系の授業について、昨年度以上に学生の意欲的な取り組みと充実した学習成果を得ることができたと考える。引き続き、より効果的な実施形態を検討し、実施していきたい。
〈オフィスアワーについて〉
オフィスアワーであるか否かを問わず必要に応じての学生対応を心がけたが、時間が確保されることでより対応ができやすくなった。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

１．担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上
２．実習指導授業の見直しを継続する。
３．ゼミナール活動の充実

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	小槻　智彩

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度担当科目なし

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

受講生の興味・関心、理解度を把握し、それらに合わせた授業を実施する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

全科目に共通して以下の活動を行った。
・受講生の自学自習と授業内容の定着を促すために、復習問題を作成して配布した。
・授業内容の理解促進や、問題意識の向上を図るために、グループディスカッションを定期的に実施した。
・上記と合わせて、受講生の興味・関心を高めることや実践との繋がりを強めるために、事例や受講生の学外実習での体験の紹介を取り入れた。
・受講生の理解度や授業内容の難易度の把握を行うために、各授業回でミニッツペーパーの提出を求めた。
・授業期間中に授業に対する要望を尋ね、提出された要望には可能な範囲で応じながら授業の改善を行った。

「教育相談（幼児のカウンセリング理論を含む）」「発達心理学ⅠⅡ」の科目では、知識の定着を図るために、上記に加えて各回の授業で小テストを実施した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

成果
・授業評価アンケートの結果をふまえると、総じて受講生の興味・関心に合った、適切なレベルの授業を実施することができ、受講生の全体的な満足度に繋がったと考えられる。
・小テストを実施した科目では、授業外の学習が促進されていたと考えられる。

課題
・学生の理解度についてはいずれの科目においても改善の余地がある。受講生にとって内容やレベルは適切だと感じられても、授業内容を理解している実感が伴っていない可能性があるため、授業期間を通して受講生の理解度を把握する必要がある。また、受講生によって理解度に差異があるため、授業内容や実施方法を検討する必要がある。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
領域「人間関係」の指導法	23Y	選択	68	82.1	6	9.0%	45	67.2%	11	16.4%	4	6.0%	0	0.0%	1	1.5%
教育相談（幼児のカウンセリング理論を含む）	23Y	選択	68	73.8	11	15.5%	26	36.6%	18	25.4%	11	15.5%	0	0.0%	1	1.4%
保育実習Ⅰ	23Y	選択	67	82.6	2	3.1%	47	73.4%	13	20.3%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	23Y	選択	68	95.4	55	84.6%	5	7.7%	5	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅲ	23Y	選択	2	95.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
発達心理学Ⅰ	24Y	必修	62	85.4	26	41.9%	23	37.1%	10	16.1%	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%
発達心理学Ⅱ	24Y	選択	62	85.6	32	51.6%	11	17.7%	13	21.0%	6	9.7%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
領域「人間関係」の指導法	23Y	4.4	4.3	4.5	3.6	38.3分	4.4
教育相談（幼児のカウンセリング理論を含む）	23Y	4.4	4.4	4.5	3.6	32.5分	4.4
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅲ	23Y	*	*	*	*	*	*

教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
発達心理学Ⅰ	24Y	4.7	4.7	4.7	3.7	52.4分	4.7
発達心理学Ⅱ	24Y	4.7	4.6	4.8	3.8	46.3分	4.7
保育実習指導Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニング
全科目に共通して以下のアクティブラーニングを行った。
・授業内容の理解促進や、問題意識の向上を図るために、グループディスカッションを実施した。
・受講生の理解度や授業内容の難易度の把握を行うために、各授業回でミニッツペーパーの提出を求めた。
上記に加えて、
「領域「人間関係」の指導法」領域では、グループで保育を計画して実践し、その内容について受講生同士でディスカッションを行う。
「教育相談（幼児のカウンセリング理論を含む）」では、一部の授業で相談場面を想定したロールプレイングを行った。

オフィスアワー
週に１度、オフィスアワーを実施した。その他、ミニッツペーパーによる質問も受け付け、授業内で受講生全体に回答することも行った。また、オフィスアワー以外においても受講生の質問や相談に応じた。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

目標
・今年度の活動内容・方法を継続し、受講生が満足できる授業を行う。

改善計画
・受講生の理解度を向上させるために、ミニッツペーパー等によって受講生の理解度を定期的に把握し、授業内容や実施方法の改善を行う。
・受講生が授業内容を理解したという実感を持つことができるように、よりわかりやすい説明を行い、受講生が学習到達度を振り返る機会を定期的に設ける。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	織田　芳人

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

①保育方法論（ICT活用）
スマホで利用できるように、実習日誌及び保育指導案の様式をWordで作成させた。PowerPointでデジタル紙芝居を制作させることまではできなかった。
②情報科学
授業評価アンケートの自由記述から、イラストを増やし、スライドの文字を減らしてポイントを少し大きめに設定した効果はあったと思われる。しかし一方で、授業進度が速すぎる、わからないという記述も相変わらず存在するので、学生間でのパソコン習熟度の格差が年々広がっているようである。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①保育方法論（ICT活用）
実習園でパソコン使用が許された場合に利用できるように、Wordで実習日誌及び指導案の様式を作成できるようにする。ICT活用の一つとして、PowerPointでデジタル紙芝居を制作できるようにする。
②子どもと玩具
西欧の幼児教育における玩具の歴史を概説し、受講生の希望に沿った玩具製作を実践させる。
③情報科学
イラストを増やし、スライドの文字のポイントを少し大きめに設定して授業を行う。PowerPointでデジタル紙芝居を制作できるように、PowerPointでキャラクターを制作できるようにする。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

①保育方法論（ICT活用）
Wordで実習日誌及び指導案を作成できるようにする。PowerPointでデジタル紙芝居を制作できるようにする。
②子どもと玩具
西欧の幼児教育における玩具の歴史を概説し、教育玩具の歴史及び安全性について概説する。受講生の希望に沿った玩具を制作できるようにする。
③情報科学
Wordで実習日誌及び指導案を作成できるようにする。PowerPointで動物キャラクターを制作する。ヴィジュアル・プログラミングの初歩としてScratchを体験する。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①保育方法論（ICT活用）
日誌や指導案をWordで作成することで、実習における記述時間を減らすことができたという学生が増えてきた。一方、手書きを求める実習園もあり、パソコンを苦手とする学生も少なからずいるので、学科全体としての課題でもある。
②子どもと玩具
受講生の希望に沿った玩具の制作を実践させられた。
③情報科学
授業評価アンケートの自由記述から、スライドとワークシートを一対一で対応させた効果があった。もう少しゆっくり進めてほしいという自由記述が1名だけだったので、授業進度はおおむね適切だったと考えられる。習熟度の格差も昨年よりは小さくなった印象を受けた。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもと玩具	23Y	選択	5	43.5	0	0.0%	4	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%
保育方法論	23Y	選択	68	67.0	3	4.2%	12	16.9%	23	32.4%	28	39.4%	1	1.4%	0	0.0%
保育実習指導Ⅰ	23Y	選択	68	93.5	50	76.9%	13	20.0%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅰ	23Y	選択	67	82.6	2	3.1%	47	73.4%	13	20.3%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	23Y	選択	68	95.4	55	84.6%	5	7.7%	5	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅲ	23Y	選択	2	95.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
情報科学	24Y	必修	62	81.7	13	21.0%	27	43.5%	15	24.2%	7	11.3%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもと玩具	23Y	4.3	4.3	5.0	4.3	157.5分	4.5
保育方法論	23Y	4.5	4.5	4.5	3.7	44.7分	4.5
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*

保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅲ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
情報科学	24Y	4.6	4.3	4.7	3.6	27.2分	4.5
保育実習指導Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「保育方法論（ICT活用）」「子どもと玩具」「情報科学」では、学生間で学び合いが自然発生的に行われていた。学生が各自の都合で、設定したオフィスアワーとは関係なく、予約なしに尋ねてきている。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①保育方法論（「保育とICT活用」へ名称変更）
課題として、Wordで「園だより」を作成する、PowerPointでデジタル紙芝居を制作する、を検討する。
②情報科学
Wordで保育指導案・日誌を作成する課題、PowerPointでキャラクターを制作する課題、等を検討する。パソコン操作に関する臨時試験を実施して、習熟度を確認することを検討する。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	中村　浩美

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

歌う事の喜びや楽しみを感じながら、実習を含めて子どもに必要な楽曲を知る。学生の個々の性格を早く把握しながらその学生に見合った指導も取り入れる。歌うために必要な体の使い方や表情を指導しながら、まだ知る事のなかった自分の声を発見する。歌への苦手意識を少しずつ克服しながら、人前で一人で歌う勇気を持てるための声掛けを細かに行う。仲間同士で少しでも達成した点を褒め合い、課題点においても発言し合えるようにする。マスク着用でも表情がわかる事への理解を実際に鏡で見ながら改善する。改善しつつある表情を意識させながら、なおかつ体を使うために立って歌う授業を設ける。手遊び歌は子ども達が特に興味を持って楽しく取り組むためパフォーマンス授業を重んじる。また、歌詞と言う言葉を理解しイメージさせる取り組みを行う。音楽と言う実技によって子ども達のみならず、学生自身の感性を高める授業を常に重んじ心がける。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・ピアノ・声楽・伴奏法が隔週での授業になった事で指導しておきたい内容に時間的な余裕がなく、年間を通しての授業計画を綿密に立てて実行する。
・教員間の報連相を密に、学生の進度状況を理解しておく。
・マスク着用だからこそマスクの下に隠されている口角から表情筋を使って、笑顔で大きな口を開けてしっかり挨拶する習慣をつける指導をする。
・教員として学生が成長できるための能力や個性を持ち備えている事を常に意識し、指導をする。
・少しの成長や達成に対しても褒めながら分析・説明をする。
・保育者になるための高い意識を持たせること、やる気にさせるための指導方法の工夫をする。
・人の前にでることへの羞恥心を軽減できるための授業展開を行う。
・言葉や感情や場を考慮して指導する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・学生一人ひとりの個性を早く見極めて、その学生自身に見合った指導をする。
・やる気にさせる言葉や授業内容及び進行方法に工夫をする。
・メンタル面強化の励みの言葉かけをする。
・演奏を苦痛に思わず、奏でられる事の喜びや楽しみを感じてもらうための言葉かけや配慮を行う。
・学生自身が自らの課題点や到達点を発見でき次のステップに生かせる助言と指導を行う。
・自信は勇気の積み重ねであり、失敗を恐れず一歩を踏み出すメンタル面からの勇気を促す。
・自分の声、歌唱法のコンプレックスを解消するためのレッスンを行う。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

どの教科においても常に学生とのコミュニケーションを大切にしてきた。教員と学生間の距離を縮めながらお互いを知り、信頼関係を築く事で極度な緊張感を和らげるための関わり方をしたと思われる。特徴ある特定の学生以外顔と名前が一致せぬまま進行する事が多く、ノートを見ながらの名前確認となってしまった事は信頼にも影響すると思われるため確認して覚えられるようにする。マスク着用でも表情が明るく声も明るくなる指導を強化したい。また、イメージ力が乏しくなっている昨今の学生に、歌詞読みを徹底させる事、その楽曲の絵を描いたり作品を製作したりしながら、より一層のイメージ力を養って発表し、言葉や製作によってのイメージ力の大切さを感じ取る事を強化する必要性がある。思いを持って歌唱してもらうために、学生の受動性ではなく自らの発表を主体的にしながら指導する。2年生は特に実習を終えて就職活動を行い、来年の今頃は現職の先生になる事を意識させて、指示待ちではなく積極的に気付いて・動いて・元気な挨拶ができ言葉遣いを考えられるよう常に指導していた。その繰り返しの指導が実習に生きたと言う学生からの声を聞けた。まだ達していない学生には今後も継続する。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習指導Ⅰ	23Y	選択	68	93.5	50	76.9%	13	20.0%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅰ	23Y	選択	67	82.6	2	3.1%	47	73.4%	13	20.3%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	23Y	選択	68	95.4	55	84.6%	5	7.7%	5	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅲ	23Y	選択	2	95.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
子どもと音楽表現	24Y	必修	62	80.4	1	1.6%	37	59.7%	19	30.6%	5	8.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現ａ	24Y	選択	62	76.6	0	0.0%	22	35.5%	34	54.8%	6	9.7%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもの歌と伴奏法	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*

保育実習指導Ⅲ	23Y	＊	＊	＊	＊	＊	＊
教育実習	23Y	＊	＊	＊	＊	＊	＊
ゼミナール	23Y	＊	＊	＊	＊	＊	＊
音楽演習	23Y	＊	＊	＊	＊	＊	＊
子どもと音楽表現	24Y	4.7	4.6	4.8	3.8	31.1分	4.7
保育と音楽表現ａ	24Y	4.8	4.6	4.8	3.8	66.1分	4.8
保育実習指導Ⅰ	24Y	＊	＊	＊	＊	＊	＊

＊…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

ピアノ非常勤講師への不満と悩みがある学生の話は以前に比べて殆どなく、常に先生方に担当学生の情報収集を行っている。音楽に対して苦手意識を持って積極的になれない学生が少しでも気持ちを明るく持ち、少しずつの進歩に喜びを感じ音楽への苦手意識を改善できるための指導を行った。音楽を通じて心の悩みを打ち明ける学生を始め、音楽に関係なく悩みや不安を打ち明けて来る学生も多く、それぞれ抱えている悩みに時に教員として、時に人生の先輩として、心からの思いや考え、方法などを時間をかけながら相談にのっている。相談に来た学生も時間をかけて何度も面談をする事で心のつかえが取れたり、悩みを解決しようと言う前向きな考えを持つようになり、悩みを克服したい一心がその学生の成長に繋がっていると感じている。今後も学生の悩みや相談には時間をかけてじっくり話を聞き、学生の悩みの負担を軽減でき成長できるための指導をしたい。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・ピアノレッスンに関しての不安感が強い学生、自分の声や声の出し方にコンプレックスがある学生へのメンタル面の強化や、学生自身が各々の課題を知り克服できるための指導を強化したい。
・みんなが笑顔でしっかりした声で挨拶ができるよう、褒める事も大切に指導していく。
・学生一人ひとりの性格を早く把握し、各々の個性を大切に教員と学生間の信頼関係を構築しながら指導したい。
・学生自身が自分の良さや課題点、好きな面、嫌いな面と、自分を知る事によっ今後の人生にどう繋がるかのディスカッションを設け、教員も自身の人生経験を話しながら課題点を克服できるように、また良い点はさらに伸びるよう指導したい。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	野田　章子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

アクティブラーニングやグループ活動を多く取り入れたために授業の目的やねらいが分かりにくくなってしまったことが前年度の課題であった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

成績評価などの方法や定期テストについての取り組み方法を早めに伝え、何を評価の基準にするのかを確認したうえで、アクティブラーニングやグループワーク、ディベートなどのさまざまな学習形態を授業に取り入れた。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

学生が今学んでいることがどこに繋がるのかを把握でき、見通しをもって学習にのぞめるように授業の展開に配慮した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

成果は、授業に対する満足度が高かったことである。
課題は、学生の理解度が低いことである。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
運動遊びの実践	23Y	選択	67	81.0	34	48.6%	20	28.6%	10	14.3%	2	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅰ	23Y	選択	68	93.5	50	76.9%	13	20.0%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅰ	23Y	選択	67	82.6	2	3.1%	47	73.4%	13	20.3%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	23Y	選択	68	95.4	55	84.6%	5	7.7%	5	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅲ	23Y	選択	2	95.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
体育講義	24Y	選択	62	86.6	36	58.1%	12	19.4%	6	9.7%	8	12.9%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと健康	24Y	必修	62	89.9	38	61.3%	17	27.4%	3	4.8%	4	6.5%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
運動遊びの実践	23Y	4.8	4.7	4.8	3.8	49.4分	4.8
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅲ	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
体育講義	24Y	4.8	4.8	4.8	3.7	55.6分	4.9
子どもと健康	24Y	4.8	4.8	4.8	3.8	51.8分	4.8
保育実習指導Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
オフィスアワー　金曜日　15時～17時
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
かなり分かり易く授業を展開したつもりであったが、学生の理解度がまだ低い。今後は、個別に対応するなどして、個人レベルの理解度をあげるような取り組みをすることが目標である。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	福井　昭史

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

「子どもと音楽表現」は８回の授業への変更から２年目になることから、昨年度の実践を基に内容の精選と再構成を図った。
「保育と音楽表現a」と「子どもの歌と伴奏法」ではピアノの授業を担当し、その技能と表現力の向上を図るための指導方法と教材の開発を行うこととした。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

「子どもと音楽表現」は各時の目標と内容を精選し、目標を焦点化した指導計画を作成し、指導にあたる。
「保育と音楽表現」と「子どもの歌と伴奏法」で担当するピアノの授業の教材開発を行い、学生の技能のレベルに合った学習を展開することに努める。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

「子どもと音楽表現」では、各時の目標と内容を焦点化し、学生に授業の目標を自覚させながら活動にあたった。
「保育と音楽表現a」と「子どもの歌と伴奏法」では、個々の学生の知識・技能の対応した指導にあたった。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

「子どもと音楽表現」では、学生が各時の目標を自覚して活動することができたため、活動意欲や理解度が高まったことがアンケートの結果に表れていると考えられる。
「保育と音楽表現a」では、学生の技能に対応した指導を実施したことから、その成果がアンケートの結果に表れている。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習指導Ⅰ	23Y	選択	68	93.5	50	76.9%	13	20.0%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅰ	23Y	選択	67	82.6	2	3.1%	47	73.4%	13	20.3%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	23Y	選択	68	95.4	55	84.6%	5	7.7%	5	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅲ	23Y	選択	2	95.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
子どもと音楽表現	24Y	必修	62	80.4	1	1.6%	37	59.7%	19	30.6%	5	8.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現ａ	24Y	選択	62	76.6	0	0.0%	22	35.5%	34	54.8%	6	9.7%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもの歌と伴奏法	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅲ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
子どもと音楽表現	24Y	4.7	4.6	4.8	3.8	31.1分	4.7
保育と音楽表現ａ	24Y	4.8	4.6	4.8	3.8	66.1分	4.8
保育実習指導Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
「子どもと音楽表現」では、楽器を用いたグループによる創造的な活動を取り入れた。 「保育と音楽表現」と「子どもの歌と伴奏法」では、学生が歌やピアノ演奏の独自の課題に対して主体的に取り組めるよう努めている。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	船勢　肇

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

・教育原理のアクティブラーニングについて、急遽とりいれたこともあって準備不足があった。とくにグループが大人数すぎた。次年度は改善に努めたい。
・映像資料とそのレジュメについては、好評を得られた。ただ、難しいと感じる学生も出た。また、さらに自分自身の考えを打ち出せる力もつけてほしいので、そのための工夫もおこないたい。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・引き続き。高度で難解なテーマから逃げずに、理解できる授業を目指す。
・アクティブラーニングの改善、定着を目指す。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・「保育と新自由主義」を新しいテーマとして取り入れ、論文の読解を取り入れる。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・論文の読解は難しく感じられたと思うが、結局はフィードバックを時間を掛けて丁寧におこなえば、理解は定着すると手応えも得られた。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
教育原理（教育史を含む）	23Y	必修	68	71.1	7	9.9%	12	16.9%	36	50.7%	11	15.5%	0	0.0%	1	1.4%
保育実習指導Ⅰ	23Y	選択	68	93.5	50	76.9%	13	20.0%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅰ	23Y	選択	67	82.6	2	3.1%	47	73.4%	13	20.3%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	23Y	選択	68	95.4	55	84.6%	5	7.7%	5	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅲ	23Y	選択	2	95.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
子どもと言葉	24Y	必修	62	76.5	1	1.6%	23	37.1%	28	45.2%	10	16.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育原理	24Y	選択	62	79.5	2	3.2%	38	61.3%	12	19.4%	10	16.1%	0	0.0%	0	0.0%
教育原理（教育史を含む）	24Y	必修	62	78.3	5	8.1%	20	32.3%	31	50.0%	6	9.7%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
教育原理（教育史を含む）	23Y	4.4	4.3	4.5	3.7	60.6分	4.3
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅲ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
子どもと言葉	24Y	4.6	4.5	4.7	3.6	48.9分	4.5
保育原理	24Y	4.6	4.6	4.7	3.6	40.6分	4.5

教育原理（教育史を含む）	24Y	4.6	4.6	4.7	3.7	45.3分	4.5
保育実習指導Ⅰ	24Y	＊	＊	＊	＊	＊	＊

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

論文を紹介し、その内容をまとめる作業を課した。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・フィードバックの時間を取りより丁寧に説明する。それをもって、難解なテーマを扱うことに挑戦する。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	松尾　公則

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

ヒトと生物は、昨年度より受講者が増えたので、標本や実物などを一人ひとりにゆっくりと見せることができなかった。しかし、講義もいい雰囲気の中で実施することができたので、全体的な満足度も、4.8と5.0といい評価が出ていた。人数が42名と多かったが、学生が興味を引くような内容や準備をしたので、このような講義を継続していきたい。栄養士の科学は、受講態度もよく、全体的な満足度も、4.8と高い値になっていた。座席を指定したことがいい結果に結びついたと思われる。ゼミについては、一週間１コマでできることが大体分かってきたので、来年度も同様に進めたいと思う。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

ヒトと生物は、昨年度の18人から大幅に増加したが、昨年同様に講義と標本や実物などとの触れ合いをバランスよく実施していきたい。
栄養士の科学は、昨年同様、座席を指定し、いい雰囲気の中で講義を実施したい。
ゼミナールは限られた時間の中でポイントを絞って活動していきたい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

ヒトと生物は、42名という多人数であったため、多少触れ合いの時間が減少したが、講義の内容を吟味して満足のいくような講義を実施した。
栄養士の科学は、昨年よりも時間をかけて講義を行いたい。特に、成績下位者への配慮をしながら講義を行った。
ゼミナールは、例年通りである。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ヒトと生物は、全体的な満足度が4.8と5.0となり、十分な成果を得られたと思う。選択科目ではあるが、学習意欲の高い学生が多く教える側としても満足しながら講義ができた。
栄養士の科学は、全体的な満足度が、昨年の4.5から4.8に増加した。難しそうな単元では少し時間をかけ、練習問題も増やしたからかもしれない。欠席者は多少多い気もするが、なかなかいいムードで講義が実施できたからと思われる。丁寧と繰り返しを重視することの大事さを感じることができた。
ゼミナールは、ほぼ予定通りに実施できたが、時間数の減少から学生との触れ合いが減っている。短い時間の中でどう接するかが課題である。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ヒトと生物	23S	選択	31	91.5	21	67.7%	9	29.0%	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ヒトと生物	23L	選択	11	87.3	4	33.3%	5	41.7%	3	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
栄養士の科学	24S	必修	27	87.1	12	42.9%	11	39.3%	4	14.3%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ヒトと生物	23S	4.9	4.9	4.8	3.5	20.3分	4.8
ヒトと生物	23L	4.9	5.0	4.7	4.6	24.0分	5.0
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
栄養士の科学	24S	4.8	4.7	4.7	4.1	53.3分	4.8

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義と演習のためアクティブラーニングは実施していない。
オフィスアワーは講義内容の説明ぐらいである。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

より高い学生の満足度を目指して努力したい。「理解できた」、「おもしろかった」、「なるほどね」などの言葉が出てくるような講義を目指したい。
具体的には、限られた短い時間をどう使っていくかである。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	三原　ミヨ子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度担当教科目なし

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

乳児保育Ⅱでは、沐浴、清拭、おむつ交換、調乳、離乳食の与え方、乳幼児の遊び等、学生へ演習の流れを説明し、教員がデモンストレーション実施後、実技の体験ができるよう計画して授業を行った。演習後、リフレクションシートによる振り返りや援助技術のポイントの全体指導を実施した。講義の際には、事例問題による展開を取り入れ、学生に考えさせる場面や学習活動を行った。
子どもの保健では、パワーポイントによるスライドを中心とした講義、視聴覚教材を用いて授業を実施した。毎時間の授業でどんな内容、レベルを求めていくか教材の検討をし、講義内容をまとめたレジュメ、プリントを配布し、空欄に重要語句を書き入れる形式とした。授業の終盤で、復習問題の実施、解説を行った。子どもの事故防止、災害における安全対策では、体験やグループワーク活動を実施し、学生参加型の授業が実施できるような場面を設定して取り組んだ。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

乳児保育Ⅱでは、実技演習を多く取り入れ、実技時の説明や振り返りを行い、実践を通して技術の習得に繋がったと学生の反応も良く熱心な取り組みがみられた。保育実習へ行く前に乳幼児の発達や特性、関わり方、援助のポイントをしっかりと伝え、学生が講義内容の理解や保育技術を習得して、実習に臨ませたい。実技でどのようなことを行うのかイメージできるよう、実技前の演習課題（家庭における事前学習）を増やす必要があった。
子どもの保健の講義では、スライドを用いて説明を行ったが、感染症の単元では病態のしくみの理解や専門用語の意味についての理解が困難な学生も見受けられ、授業中の発問の工夫をしたり、もっとかみ砕いて説明をする必要があった。子どもの視野、行動の範囲などチャイルドビジョンの体験や事故防止や安全対策のグループワークでは学生が協力し合う姿や意見交換できた場面から各自、学びへと繋がったと考える。乳児保育同様、家庭学習の時間として予習課題や事後学習の課題を学生に与えて授業展開していく必要がある。
全体的な満足度や教え方、学習の内容やレベル、学生の学習意欲は目標としていた値であったが、学生の理解度の結果が目標値より低く、課題であり、わかる授業を目指し、さらに教材研究に励んでいく。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの保健	23Y	選択	68	74.9	6	8.5%	39	54.9%	13	18.3%	8	11.3%	0	0.0%	1	1.4%
乳児保育Ⅱ	23Y	選択	68	77.6	5	7.0%	49	69.0%	11	15.5%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅰ	23Y	選択	67	82.6	2	3.1%	47	73.4%	13	20.3%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	23Y	選択	68	95.4	55	84.6%	5	7.7%	5	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅲ	23Y	選択	2	95.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもの保健	23Y	4.6	4.6	4.6	3.8	35.8分	4.6
乳児保育Ⅱ	23Y	4.7	4.7	4.6	3.5	25.8分	4.6
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅲ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*

保育実習指導Ⅰ	24Y	＊	＊	＊	＊	＊	＊

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

保育実習前に０歳児の保育（抱っこの仕方やミルクの飲ませ方、遊び等）について、質問や赤ちゃん人形を用いて体験をしたい学生へ指導を行った。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

乳児保育Ⅱでは、実技演習前の予習課題や手順、演習で取り組むべき内容、保育技術のポイントが押さえられるように計画的に進め、授業内容の理解に努めていく。
子どもの保健では、子どもの身体発育や発達、健康状態、感染症や病気のしくみ、事故予防と対策などの専門的な知識の理解が得られるよう授業資料や視聴覚教材の検討、一方向の説明にならないよう学生に思考を促す発問をや考える場面を増やし、授業の構成、展開していく。
授業の進度に合わせた、予習課題や事後課題を増やし、家庭での学習時間の定着を図る。（Google classroom等の電子媒体の活用）
主体的・対話的な学びができるようペア活動やジグソー教育、協働学習を計画して、取り組む。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	本村　弥寿子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

実際の遊びの実践は、時間的なゆとりがなかったため、教科書の事例や授業者の経験を多く紹介するよう心掛けた。授業評価アンケートでの満足度は前年度より高くなり、成果があったと思われる。ただ、C評価の割合は前年度より若干高い。学修理解度の2極化が進んでいるようにも感じられるが、“何が大事なのかわからない”といったコメントが2名から出ており、重要な部分を一層ポイントを絞って講義することが求められているようである。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

実際の保育の様子を知る機会を多く持つ。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

事例の読み取りやDVD視聴など、保育の実際に間接的であっても触れる機会を多く作る。学修内容を精選し、繰り返し教授する機会を作る。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

「子どもと環境」「保育内容総論」のSとAの評価がふえた。一方、重要な内容が分からないとコメントする学生も一定数おり、そのような学生を把握し、適切な対応が課題である。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育方法論	23Y	選択	68	67.0	3	4.2%	12	16.9%	23	32.4%	28	39.4%	1	1.4%	0	0.0%
保育実習指導Ⅰ	23Y	選択	68	93.5	50	76.9%	13	20.0%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅰ	23Y	選択	67	82.6	2	3.1%	47	73.4%	13	20.3%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	23Y	選択	68	95.4	55	84.6%	5	7.7%	5	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅲ	23Y	選択	2	95.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
子どもと環境	24Y	必修	62	78.0	16	25.8%	16	25.8%	10	16.1%	20	32.3%	0	0.0%	0	0.0%
保育内容総論	24Y	必修	62	77.5	19	30.6%	11	17.7%	10	16.1%	22	35.5%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育方法論	23Y	4.5	4.5	4.5	3.7	44.7分	4.5
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅲ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
子どもと環境	24Y	4.7	4.7	4.7	3.9	47.3分	4.7
保育内容総論	24Y	4.6	4.6	4.6	3.4	43.7分	4.5
保育実習指導Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「保育内容総論」では遊びの実践を行い、実際に活動しながら子どもの視点や保育者の視点で保育の実際について意見を交換した。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

レジュメの内容構成を工夫する。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	山中　慶子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

「基礎」⇒「応用」、「Ⅰ」⇒「Ⅱ」のように、段階を追ってステップアップできる内容が求められるため、まず、学生の基礎的な知識・技術を把握することが求められる。
そのうえで、「基礎」「Ⅰ」では、保育者として、現場で必要なスキルを身に付けられるよう指導を進めていくことを目的とした。

「基礎」では、説明や製作に時間をかけ、一つのことを丁寧に進めていったことが、学生の授業評価につながったと考える。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

選択科目を履修したいと思えるような授業計画の設定。
グループワークでは、個々の評価の仕方を定めていきたい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

「子どもと造形表現（基礎）」では、幼児造形の技法や色の知識など、今後の造形に関する授業で基礎となる知識を演習を通して学ぶ。
「子どもと造形表現（応用）」では、基礎で学んだ技法以外の表現方法を用い、様々な素材を使ってイメージから作品を製作する。

「子どもの絵と製作Ⅱ」では、主に自己紹介絵本の制作、模擬保育を実施することで、演習を通してスキルを身に付けるとともに実習に向けての準備を行う。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

各科目、学生の授業評価は高く、内容は適していると思われる。
グループ活動の評価の仕方が課題である。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの絵と製作Ⅱ	23Y	選択	32	87.3	14	43.8%	13	40.6%	5	15.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅰ	23Y	選択	68	93.5	50	76.9%	13	20.0%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅰ	23Y	選択	67	82.6	2	3.1%	47	73.4%	13	20.3%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	23Y	選択	68	95.4	55	84.6%	5	7.7%	5	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅲ	23Y	選択	2	95.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
子どもと造形表現（基礎）	24Y	必修	62	80.1	7	11.3%	28	45.2%	26	41.9%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと造形表現（応用）	24Y	選択	38	84.3	9	24.3%	19	51.4%	9	24.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもの絵と製作Ⅱ	23Y	4.8	4.8	4.8	4.0	56.0分	4.8
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習指導Ⅲ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
子どもと造形表現（基礎）	24Y	4.9	4.9	4.9	4.0	52.1分	4.9

子どもと造形表現（応用）	24Y	4.9	4.8	4.9	3.7	35.6分	4.9
保育実習指導Ⅰ	24Y	＊	＊	＊	＊	＊	＊

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「子どもと造形表現（応用）」「子どもの絵と製作Ⅱ」では、積極的にグループワークを実施しており、学生が主体的に取り組むことが出来るような授業構成を心がけている。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

「子どもと造形表現（基礎）」以外は、選択科目のため、造形表現が好きな学生が履修しているような印象である。
造形に苦手意識のある学生も履修したいと思えるような内容を考えていきたい。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	池田　光壱

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

2023年度の学生による授業評価アンケートの結果も含めて2020年度～2023年度の4カ年の結果について検証したところ、「内容やレベル」4.1→4.3→4.4→4.3、「教員の教え方」4.1→4.4→4.5→4.3、「学生の学習意欲」4.0→4.2→4.6→4.3、「学生の理解度」4.0→4.2→4.2→4.1、「全体的な満足度」4.3→4.4→4.5→4.1であった。ポイントの増減は小数点以下であり、これは受講生全体の人数の多寡に影響されることが考えられるので、質問項目ごとに2022年度と2023年度の結果を比較し検証を行った。先ず、教員側については次のとおり前年度と大きな変化は見られなかった。「内容やレベル」について「十分適当であった」もしくは「ほぼ適当であった」と回答した者の合計は80%を越えていた。「教員の教え方」の満足度について「十分満足できた」「ある程度満足できた」と回答した者の合計は80%を越えていた。しかしながら、授業の総合評価において「満足できなかった」と回答している者も確認され、自由記述にも「前に書かれている文字が見にくかった」とあることから、板書は特に気を付けたい。次に、学生側については年度によって違いが確認された。「学修の取組」について「十分に取り組んだ」「ある程度取り組んだ」と回答した者の合計は前年度に比べて10%程度減少した。「授業の理解度」について「十分理解できた」「ある程度理解できた」と回答した者の合計も2022年度に比べて10%程度減少した。さらに、課題であった「授業外学習時間」は、2022年度から2023年度にかけて36.8分→23.8分→33.5分→27.5分となっており、昨年度より授業外学習時間が6分減少した。授業外学習時間の目標値として設定している学習時間は60分でありその半分にも満たない。したがって、学生の自主的な学習をさらに促す仕組みの構築が課題であると考えられる。他にも2023年度の目標として、一週間の授業外学習時間が60分以上となる学生の割合を25%以上とすることも目標として設定していたが、2022年度よりも若干増えてちょうど25%となったことは少しだけ評価できる。また、自由記述の内容を踏まえると、これら自由記述の回答をした学生が1時間以上授業外学習を行っている25%の層であると推測され、そうでない残りの75%の層をどのように自主的な学修に向かわせるかが最大の課題である。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①授業の質を維持するとともに質の向上を試みる
②授業外における自律的且つ主体的学修を促す仕組みをつくる
③授業外学習時間が1時間以上となる学生を増やす(数値目標は50%以上)

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

①学生は授業の開始後約10分間、前回授業の振り返りに取組み（Google フォームを利用）、その後5分程度を使って教員によるフィードバックを行った。【今年度の目標・改善計画②に対応】
②授業の点検・評価のために、中間時点にGoogleフォームを使用して「学生による授業改善アンケート」を実施し（5月28日8回目授業）、9回目授業以降の授業改善に取り組んだ。【今年度の目標・改善計画①に対応】
③ただ単に授業外で取り組む課題を課せば授業外学修時間は増えるがそれでは意味が無い。学生の主体的な学修を促すことが肝要である。そこで、学生が主体的且つ自律的に学修へ向かう姿勢を醸成すること、並びに学修内容の興味喚起を目的として、他の科目及び栄養士実力認定試験との連関を意識した授業を展開した。具体的には、食品衛生学、食品加工学、調理学、生化学、基礎栄養学との連関を意識した。【今年度の目標・改善計画③に対応】

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

【教員側】2024年度の学生による授業評価アンケートの結果も含めて2020年度～2024年度の5カ年の結果について検証したところ、「内容やレベル」4.1→4.3→4.4→4.3→4.1、「教員の教え方」4.1→4.4→4.5→4.3→4.3、「学生の学習意欲」4.0→4.2→4.6→4.3→4.4、「学生の理解度」4.0→4.2→4.2→4.1→3.3、「全体的な満足度」4.3→4.4→4.5→4.1であった。
質問項目ごとに2023年度と2024年度の結果を比較し検証を行った。先ず、教員側については次のとおり前年度と大きな変化は見られなかった。「内容やレベル」について「十分適当であった」もしくは「ほぼ適当であった」と回答した者の合計は86%であった。自由記述では、「しっかりとした基礎がなっていないと理解が難しかった」「教科書の内容にプラスして内容が難しく感じることが多かったです。ただ、栄養士としての勉強には必須だと思うのでちゃんと理解しておきたいと思いました」「栄養士に必要な基礎をしっかり学びことができたので良かったです」という回答が寄せられ、学修者自身、振り返りができていることがうかがえた。
「教員の教え方」の満足度について「十分満足できた」「ある程度満足できた」と回答した者の合計は85%であった。しかしながら、授業の総合評価において「あまり満足できなかった」と回答している者も確認されたことから、引き続き授業改善に努めたい。
授業期間の中間時点で実施した「学生による授業改善アンケート」において「改善してほしい」と回答した者は、「教員の声の聞き取りやすさ」7.4%、「板書やパワーポイントのスライド表示」14.8%、「授業のわかりやすさ、授業が進むスピード」22.2%であった。また、授業に関する気づきや要望等について回答を求めたところ、「少しわかりづらかったです。板書を分かりやすくして欲しいです」「大事なところをまとめたプリントが欲しいです。わからないところがあります。」「話題が変わったりしていて教科書のどこを勉強しているのかがわからないです」「ごく稀に早口になって聞き取れないところがある。ノートにメモを取りたいのに、次々と情報が入ってくるのでメモをとる余裕がなくなっています（メモをとってしまうと聞き逃しが多くなる。授業が終わっても質問をするタイミングを掴むことができないので、質問用紙兼出席カードを用いるのはいかがでしょうか？」「聞こえてはいますが、もう少し大きな声のほうが聞き取りやすいです。口での説明が多いのでもっとホワイトボードで書きながら授業してほしいです」との要望が寄せられたため、後半の授業において改善に努めた。
【学生側】「この授業に意欲的に取り組みましたか」について「十分に取り組んだ」「ある程度取り組んだ」と回答した者の合計は89%であった。「この授業の内容を理解できましたか」について「十分理解できた」「ある程度理解できた」と回答した者の合計は、52%であった。さらに、課題であった「授業外学習時間」2020年度から2024年度にかけて36.8分→23.8分→33.5分→27.5→41.8分となっており、昨年(2023年)度より授業外学習時間が14.3分増加し、過去5年間で最も長くなった。しかしながら、授業外学習時間の目標値として設定している学習時間は60分であり、未だ到達していない。また、「学修に取り組む姿勢」について、「予習・復習・課題など授業に関する学修を行った」と回答した者は17%であった。さらに、今年度の目標であった「授業外学習時間が1時間以上となる学生を増やす」について目標値を50%以上と設定していたものの30%程度にとどまったことから、引き続き学生の自主的な学習を促す仕組みの構築が課題である。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
食品学Ⅰ（食品成分の科学）	24S	必修	27	69.1	2	7.1%	5	17.9%	8	28.6%	12	42.9%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
食品学Ⅰ（食品成分の科学）	24S	4.1	4.3	4.4	3.3	41.8分	4.1

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニング（以下ALと略記）は「具体的・直接的コミュニケーション」であると捉えており、手法にこだわるのではなく、学生と教員間で具体的・直接的コミュニケーションがなされているのであれば全てそれはALであると考えている。担当授業では、常に双方向型（学生⇔教員）の展開を意識して授業を実施した。そのことによって、学生の理解度などを常にチェックしながら授業の進行ができた。オフィスアワーは実施していない。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

【目標①】「学修に取り組む姿勢」について、「予習・復習・課題など授業に関する学修を行った」と回答した者が20%を超える。
【目標②】実質的な学修活動としての授業外学習時間を60分に近づける。
【目標③】「学生の理解度」を4.0ポイント以上

【改善計画①】学生の自主的な学修を促す仕組みを構築する（目標①・②に対応）
【改善計画②】知識の定着を図るための仕組みをつくる（目標③に対応）

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	井上　靖久

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度は、基本的な人体の構造と機能についての、十分な基礎知識の強調に重きを置いたが、その成果としてC評価からB評価への認識が増加している。しかし一方でA評価が減少していることから、授業に物足りなさを感じた層が一定数存在したと思われる。しかしS評価もやや増えていことや授業中の返納から、まずは基礎から！と思えた。この科目は学生にとっては難解であり、今後はこの方針に日常の出来事と絡めた授業を続けたい。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

人体の構造と機能の基礎に重点を置きつつ、人体に起きる機能的変化と人体の構造の相関を、日常の様々な事象を絡めて分かりやすく授業を進めたい。また、特に現在進行形の社会的な話題に上る健康や疾病の情報の解説も交えたい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

特に今年度は人体の機能と構造の相関を実感できる配慮を行うことと、昨年は家庭学習の時間が減少している傾向が見られたので、次回のテーマに沿った予備的な準備を促すような授業にしていきたい。そのためには自分自身に加えて家族・友人・ニュースなどに具体的にみられる事例に注目できるような方向性を示したい。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度は授業の目的とした、自分事としての人体の構造と機能の相関や、疾病の成り立ち、健康の維持増進といった人体での重要性についての理解はすすんだと思われる。今後は人体の各臓器の関係性・関連のみならず、各種疾病の相互関係や病気の進行に対して、単に知識として持つのではなくて、すすんで論理的に理解しようとする姿勢を身に着けてもらいたいと考えている。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
解剖生理学実習	23S	選択	33	77.4	1	3.0%	15	45.5%	11	33.3%	6	18.2%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
解剖生理学実習	23S	4.5	4.4	4.3	3.8	118.1分	4.4

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業中に次回に向けて、各自準備できるように、テーマを具体的に挙げている。また、この場合それぞれに特有な事象があれば、特に強調して取り上げることを支持している。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

解剖生理学という学生にとっては取りつきにくい科目出るというものの、栄養士を目指す学生にとっては同時に避けて通れない重要事項を多々含んでおり、限られた授業時間を有効に生かしたい。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	大串　祐子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

大教室の授業であるため、授業の双方向性を保つことが困難であるが、グループワークやその発表を通して双方向性を保ちたい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

学生の理解度を把握するため、リアルションペーパーを毎時間提出してもらい、出席確認と各学生の理解度を見る。
時間の許す限り、グループワーク等参加型の内容を取り入れたい

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

子ども家庭福祉は内容が濃く、この教科に関連する法律や制度に改正が多い状態であったが、関連資料を配付するなどして学生の理解を助けた。
一方で、内容が多すぎて全員が理解するに至っていないことが課題である。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子ども家庭福祉	24Y	選択	62	86.1	25	40.3%	28	45.2%	8	12.9%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子ども家庭福祉	24Y	4.5	4.1	4.4	3.4	27.9分	4.3

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

他の学生の考え方を知るために、グループワークを取り入れた。
当初は４人程度のグループとしたが、なかなか意見をだすことができないので、２人で話し合うこととした。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

学生がこの教科の面白さに目覚めるような授業内容や方法を考えることが必要である。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	尾崎　好子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度は、受講頂いた学生による授業の感想・意見・要望について、記述して頂いた方全員に良かったと書いて頂ける講義ができて目標を達成できた。また試験結果も良く、全体的によく学習しよく修得できたのではないかと思う。次回も満足度の高い講義が出来るよう講義を工夫していきたい、としていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（1）　理解度を確認しながら丁寧に講義を進行する。
（2）　資格取得を希望する受講生が全員合格できる難易度で講義を行う。
（3）　講義を振り返る際に分かりやすい板書を心がける。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

（1）　レセプト作成方法を確認し、プリントごとに要点を解説した後それぞれ実際に書いてみる、を繰り返した。分からないことがあれば聞きに来るように伝え、聞きに来た疑問点やよく間違う箇所については全体にアウトプットした。
（2）試験出題範囲でケアレスミスをしやすい箇所など、実戦でも気を付けなければならない箇所について繰り返し説明した。
（3）大きな字を心がけ、きれいな板書を心がけた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

前回の満足度が4.9と高評価を頂いておりましたが、今回の全体亭な満足度が5.0を頂き、受講者の皆様の講義における集中力や熱意が素晴らしかったため、講義を予定通り終わらせることができた。
集中講義という講義形態のため、こまめな休憩を入れたことがよかったように思う。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医療事務実技	23L	選択	7	97.6	6	85.7%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
医療事務実技	23L	4.9	5.0	5.0	4.6	102.9分	5.0

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業中や休憩時間に受け付けた質問は全て講義の中で全員にフィードバックを行った。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（1）分かりやすく見やすい板書を心がける。
（2）聞き取りやすい声、発音を心がける。
（3）学習達成度を確認しながら全員が習得できるように講義を行う。
（4）1人も置き去りにしない講義を心がける。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	小林　寿人

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

学生による授業評価アンケートの結果は特に問題は無かった。評価については今年は全体的にグループワークに積極的に取り組む学生が多かった。ワークショップの制限時間を超えるケースが多々みられたこの点については改善を図りたい。成果については①普段、新聞を読むことによってニュースに触れる場をもう置けられた②新聞記事を通じ学生に文章力と読解力の向上の一助となった③「自己PR新聞」を作ることにより学生自身の「強み」「苦手なこと」を見つめなおす時間を作ることができた。以上の3点が今期の成果と考える。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

月曜日の9時開始のコマなので交通事情などにより一部学生が遅刻・欠席する例が見られた。来年は10時40分からの授業に時間を変更したい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

ワークショップ（新聞作りなど）において具体的に制作過程を提示し、より分かりやすい授業に務める。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

毎回、自分の気になった記事の感想を班内で回し読み、学生に多様な考え方（記事のとらえ方）があることを理解してもらった。今年も自己表現の方法として「自己PR新聞」を作成するワークショップを実施。思考の多様性、自己表現について学ぶ機会を設けた。OGで長崎銀行に勤務する濵本氏に仕事について話してもらい今後の就職活動について卓話をしたもらった。また今年も同行が制作したＳＤＧｓを学べるカードゲームを使ったワークショップを実施し、ＳＤＧｓへの意識を高めた。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
時事研究	24L	必修	13	77.6	1	7.7%	4	30.8%	5	38.5%	3	23.1%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
時事研究	24L	4.4	4.3	4.6	4.1	13.8分	4.2

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

学生による授業評価アンケートの結果は特に問題は無かった。授業については今年は全体的にグループワークに積極的に取り組む学生が多かったが今年も、ワークショップの制限時間を超えるケースが多々みられたこの点については改善を図りたい。成果については①普段、新聞を読むことによってニュースに触れる場をもう置けられた②新聞記事を通じ学生に文章力と読解力の向上の一助となった③「自己PR新聞」を作ることにより学生自身の「強み」「苦手なこと」を見つめなおす時間を作ることができた。以上の3点が今期の成果と考える。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

講義内では①新聞を読んで気になった記事とその理由・感想を班内及び班ごとにでプレゼンするワークショップ②文書（記事）を読んでその要旨となる「見出し」をつけてもらうワークショップ③新聞形式で自己PRをするワークショップを実施、新聞記事の書き方を説明しながら「相手に伝わる」表現について指導した。

（１）各ワークショップで実施例を交えて学生に対し、より細かく実践方法を提示する
（２）最初のグループワーク時に各テーブルに入りファシリテーターを行い学生にその方法を見せる

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	近藤　孝史

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

ビジネスデータ活用１、ビジネスデータ活用３と授業を実施した結果、教科書の内容に関しては平均値までは履修できたと考えられる。
■ビジネスデータ活用１の課題
高校を出たばかりの生徒たちの中には商業高校出身の生徒もおり、基礎の基礎から実施する内容のため、授業内容が分っている事が多いため、授業に集中できない生徒が見受けられた。
初回授業にて習熟度を測り、授業内容を理解している生徒には別途課題を与えるような進め方がいいのではないかと考える。

■ビジネスデータ活用３
授業内容がビジネスデータ活用１・２で行った内容の延長上にあるため、生徒にとって授業に新鮮味がない用に感じられた。
１年次に履修したデータ活用のスキルを使って、どのようにその技術を活用していくのかを中心に授業を進めていくと生徒たちの学習意欲が高められるのではないかと考えられる。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

授業なので教科書を見ながら履修していく内容が多いが、簡単内容は自己学習で進めさせながら、修得した知識技能をどのようにして使っていくのかのアウトプットを中心とした授業を行い、足りない知識をさらに修得するような授業の進め方を行っていく。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

ビジネスデータ活用２では教科書を使った授業は行わず、ビジネスデータ活用１で修得した技術を応用的に使いながらアウトプット（プレゼン）を中心しとした授業を行っていく。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ビジネスデータ活用で学んだ内容を使い、一人一人が目標をもって就職活動に役立てられるようにする

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネスデータ活用３	23L	必修	18	89.4	12	63.2%	7	36.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネスデータ活用１	24L	必修	13	84.4	1	7.7%	12	92.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ビジネスデータ活用３	23L	4.3	4.3	4.7	4.3	94.0分	4.5
ビジネスデータ活用１	24L	4.1	3.9	4.4	3.9	46.2分	4.2

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

希望があれば授業前の１時間程度時間を作って質問に答えるようにしている。
意欲のあるものは利用している。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

生徒たちの能動的な動きができるよう、意欲向上に努める。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	堺　蘭

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

学生たちの勉強する意欲・好奇心を強く感じた。
テキストのほか、毎回日常会話の練習など中国社会の特徴なども紹介。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

学生たちの希望に応じて、より早く、より実用的な会話、作文の練習を進めたい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

会話の練習を繰り返しながら聴力等の練習を強化する。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

聴力、会話力のほか、作文の練習を少しずつ進めることができた。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
中国語Ⅰ	24S	選択	1	95.0	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
中国語Ⅰ	24L	選択	4	92.5	4	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
中国語Ⅰ	24S	5.0	4.0	5.0	4.0	60.0分	5.0
中国語Ⅰ	24L	4.5	4.8	4.8	4.5	45.0分	4.8

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

できるだけ実用会話力文章力を向上させるよう取り組む。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	沢　みつ子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

英語嫌いが生まれない様にするための努力が実り、授業開始時に比べ、「嫌い」が減った。
ロールプレイングと自分たちで作る寸劇の発表が役に立った。
学生のレベルの差に対応できるプリント学習の実施と実力の向上を実感してもらうことが課題として残った。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

目標：それぞれの実力向上と自信による確認。そのための自宅学習の課題、フィードバック方法を工夫する。
計画：ロールプレイング、寸劇作成は、早い時期にとりかかる。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

殆どの会話練習をペアで実施した。
筆記豆テストは、出来なかったところをなくすために同じ問題で数回実施した。
①自宅学習を促すための復習豆テストの配布　②基礎英語力の強化（助動詞の活用と文例）　③暗誦　④ロールプレイ

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①ロールプレイングと寸劇の発表は全員真剣に取り組んだ様子で、どれも良い出来であった。
②暗誦はほとんどの学生には実力の向上に役に立ったし、本人たちがそれを実感していることもわかり、成果が確認できた。
③ほとんどの作業をペアで行うことで、授業時間中は積極的に参加せざるを得ない環境に出来たことは成果であるが、その一方、気の合った学生どうしでペアをつくるので、反発心を増長させることにもつながるので、メンバーの編成の仕方は課題である。
④プリントに毎回の授業の進め方や練習内容を記していたが、読まずに伝わっていない学生がいたことが分かった。口頭練習やグループ作業の際には、板書もしていたが、完ぺきに周知させることが課題である。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネスの英会話	23L	必修	18	77.1	1	5.3%	8	42.1%	9	47.4%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ビジネスの英会話	23L	3.7	3.8	4.6	3.7	61.9分	3.8

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

なし

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

目標
①英会話とビジネス英会話に対する苦手意識をもつ学生をなくす。
②それぞれの学生が実力の向上を実感できるようにする。
③英会話力の向上を楽しみにしている学生が多くいるので、話す力を強化する。
改善計画
①自身で上達が感じられるよう、評価の仕方を工夫する。
②講師（私）の言っていることがわからないという点や、授業のスピードが速いという学生を無くすべく、講義の口調を意識し、説明の仕方を改善する。
③プリントの文字フォントを大きくする。
④板書の際は、文字をゆっくり書いてきれいに見せる。
⑤授業内容の予定を見直し（使用テキストとシラバスの再検討）
　ビジネス英会話に関連する時事の話題は授業に関係ない話ではなく、話すべきだと考えるので、授業の所要時間には今年度より余裕をつくっておく。
　時間に余裕を作ることで、一人一人の到達度を確認する時間にあて、ついていけないというという学生を無くしたい。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	下瀬　和枝

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・聴覚障害者を理解し、基礎的な挨拶や自己紹介ができる簡単な窓口対応ができるようになる
・手話の単語、文法を習得し聴覚障害者と簡単な日常会話が手話でできるようになる
・聴覚障害者が理解出来、相手の言うことを理解し簡単な窓口対応が手話でできるようになる
・聴覚障害者を理解し、いろいろな人、また、いろいろな場面で積極的に会話ができるようになる

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・映像を使用し、実際に聞こえない体験をし、聞こえない障害を理解する
・PPTを使用し、目で見て理解していろいろな手話を習得する
・実際に聞こえない人の体験談を聞き、具体的な理解に繋げる
・将来的に、業務時に使用できる手話単語を選択して重点的に使用できるようにする
・実際にろう者と対面で、手話を使いやりとりをして、ろう者や手話についてさらい理解を深める

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・映像やPPTを使用し、視覚的言語としての手話を分かりやすく指導できた
・自身の生活の中で使用する単語や、将来、業務で使うと予想される単語を選択して重点的に繰返し指導したことで習得に効果があった
・ろう者に依頼し、講演と対面でのやりとりを体験してもらい、さらにろう者や手話に関する理解が深まった
・学生の人数は少なかったが、なかなか習得が難しい学生への支援方法に迷いがあり、十分に習得が出来た、といえるまでの指導が出来なかった

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
手話講座	24L	必修	13	77.0	2	15.4%	2	15.4%	7	53.8%	2	15.4%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
手話講座	24L	4.8	4.8	4.6	4.2	45.0分	4.9

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・毎回、次週の課題タイトルに関して、イメージしてきてもらったり、調べてくるような宿題を課した
・自宅や、構内で複数人数が集まった時など、指文字しりとりを積極的に行う様に促した

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・今年度と同様、視覚的な方法で理解を促し、途中のろう者講義や終盤の複数ろう者とのやりとりを実施することで、手話の理解、習得を中心に進める
・平均的な習得力向上のため、今年度は席替えを行えなかった（固定の席が必要な学生がいたため）が、可能であれば席替えをすることで、相手を変えたコミュニケーションを体験してもらうか、席替えができなければ、随時相手を変えたコミュニケーション体験が出来るように工夫する

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	関口　良嗣

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

令和５年度生と比較し、Sクラスのレベルはワンランク上がっており高評価の生徒も増えている。平均点は前年度70.1%に対し前期は76.8%であった。
反対にLクラスについては、令和５年度生と比べ、英語力を特訓しないと就職先で有利な立場に持っていけない課題がある。前年度73.1%, 前期70.7%。これを後期の優先課題としたい。
YはABクラス共に前年同様モチベーションは高く保たれており、成績的にも問題ない。むしろ成績は前年度よりも大きく上がっている。平均点前年度70.4%, 前期78.9%。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（１）１日１０分ルールを全員の目標とし徹底させ、少しずつでもコンスタントに学習する習慣をつける

（２）スライド使用時には極力生徒の様子を確認し、理解度を確かめる。（要改善）

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

スライドは拡大してもスクリーンからはみ出さないよう、原稿の右マージンを更に空ける工夫をした。
場所法が効果的だったという声が増えたようである。まだ丸暗記の生徒もいるとは思うが、英語学習の習慣に繋がっていれば幸いである。
点呼では新たに米国式を取り入れ、クラスの始まりに異文化を感じさせる工夫を入れた。（ABSL全クラス）

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度の授業評価アンケートでは学生の理解度が前年度（前期）と比べ0.1～0.7ポイント下がっていた。内容・教え方・学習意欲は0.7ポイント上がったクラスもあった。つまり手段はよくても結果が出せなかった、と理解できる。これを重く捉え、後期に活かしたいと思う。パワーポイントが見づらいという声はなく、むしろ見やすかったという意見が見られた。
エアコンが寒かった生徒（１人）がいた。これはほぼ毎回室温については確認をしていたが、より配慮する必要を感じた。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
英語Ⅰ	24S	必修	27	76.8	10	35.7%	6	21.4%	5	17.9%	6	21.4%	0	0.0%	0	0.0%
英語Ⅰ	24L	必修	13	70.8	2	15.4%	0	0.0%	6	46.2%	5	38.5%	0	0.0%	0	0.0%
英語Ⅰ	24Y	必修	62	80.2	18	29.0%	22	35.5%	9	14.5%	13	21.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
英語Ⅰ	24S	4.3	4.4	4.3	3.5	40.0分	4.3
英語Ⅰ	24L	4.6	4.8	4.6	3.8	45.0分	4.7
英語Ⅰ	24Y	4.5	4.6	4.7	3.4	42.9分	4.6

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実施なし
ただし、時間が合いそうな時にすすんで質問に来るように促している。今期からはGoogleクラスルームを利用しているので、これも活用できればと思っている。、

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

単語および教科書の予習の時間を細かく設定させ、続けさせる。
理解度を実感させるために、ノーカウントの文法小テストを受けさせる。
毎週自分が立てた目標を書かせて、実行させる。
生徒に受けたい、と思われるような授業を目指す。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	孫　承言

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

ハングルの読み書きが可能になり、学習した文法を応用してペアワークやグループワークで簡単な会話の練習を行う。教師は各ペアやグループの発音・表現等を確認し、韓国語で質疑応答を行いながら、読む力・話す力を向上させることが課題だった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・「韓国語Ⅰ」で習得したハングルの文字を復習した上で、会話に慣れる練習を積み重ねていく。
・ハングル検定5級とTOPIKの初級に合格できる能力を身に付ける。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・ペアで会話の練習を行う。教師は発音・表現等の間違いを修正するほか、韓国語で質疑応答を行う。
・授業終了後、課題を提供し、学生の自主学習を促す。
・提出された課題等は採点し、コメントを付して返却する。
・定期的に小テストを行い、読む力を評価する。
・授業中に行う小テストは、解答の解説を行う。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートで、内容やレベルは4.8だったが、学生の理解力は4.5、4.0で、レベルに比べて理解力が少し低かった。その結果、小テスト・定期試験の成績も基準に達しない受講者が何名かいた。一方、授業に積極的に参加し、優秀な成績を修める受講者も多かったので、受講者のレベルがまちまちな中で、どのレベルとスピードに合わせるかが課題であると感じた。今後は復習をより徹底的に行ったり、ワークシートの課題を増やして、全員の理解力を向上させるように努めたい。また、ワークシートや小テストの成績が低い受講者にはレベルに合うワークシートを配付したり、授業中に頻繁にコミュニケーションを取りながら基礎から繰り返して学習できるようにする。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
韓国語Ⅰ	24S	選択	3	85.8	3	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
韓国語Ⅰ	24L	選択	9	86.1	3	33.3%	4	44.4%	1	11.1%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
韓国語Ⅰ	24S	4.8	4.8	4.8	4.5	30.0分	4.5
韓国語Ⅰ	24L	4.8	4.8	4.7	4.0	46.7分	4.8

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・授業終了後、文法のワークシートの課題を提供（約10回）し、学生の自主学習を促している。提出された課題は採点し、添削して返却している。
・授業中及び終了後、単語や発音などの質問があり、単語の意味を説明したり、一緒に発音してみるなど、指導を行った。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・復習を十分に行う。
・ペアワークやグループワークで簡単な会話の練習を行う時、教師は各ペアやグループの発音・表現等を確認し、間違いを修正するほか、韓国語で質疑応答を行う。
・レベルに合うワークシートを配布する。提出されたワークシートは添削して返す。
・ワークシートや小テストの解説を行い、直ちにフィードバックできるようにする。
・学習意欲の低い学生に対して、やや難易度を落とした復習課題を課する等の対応を取る。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	高柳　篤江

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

どの学生もスピーチは段々と力をつけていった。
話すことが得意な学生、意欲的に授業に取り組む学生が数人いて、クラスを引っ張ってくれ雰囲気がよかった。
やむを得ず欠席が多くなる学生に対して、評価点数を加算できないのが残念であった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

スピーチについてこれまでの取り組み方や、自分の傾向、感触など学生が自分を見つめる時間を最初に取るようにする。
スピーチにそれぞれが目標を持って取り組めたら、成長が早いと思う。
クラスメイトのスピーチを聴くことでコミュニケーションの広がりも感じてほしい。
授業項目は優先順位を意識したい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

毎回、前に出てスピーチをしてもらう。苦手意識を減らすために、原稿の準備の仕方を繰り返し、アドバイスを行う。
ミニレポートを授業の最後に作成することで、授業内容を再確認、自分やクラスメイトのスピーチを振り返り、反省材料を見つける。
提出されたミニレポートには毎回アドバイスを記入して返却する。またコピーを保管し、成長の具合をチェックする。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ほとんどの学生が真面目に取り組んでいた。毎回の発表も真剣に考え、内容を吟味したものが多かった。
話しの組み立て方も、授業で示したものを生かしていた。
新しい項目に入っても、以前の項目を繰り返し説明したことが、学生の理解につながったと考える。
課題としては、学生の積極性をだすこと。グループ討議を生かしたい。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
スピーチコミュニケーション	24L	必修	13	89.1	8	61.5%	4	30.8%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
スピーチコミュニケーション	24L	4.7	4.6	4.9	4.2	19.3分	4.7

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業のあと質問があれば来てください、と促していたが、数人にとどまった。
ミニレポートに書かれた質問には、授業内容以外のことも応えた。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

毎回のスピーチ、ミニレポートの提出は活用したい。
自分の考えを言語化できるようにする。
グループ討議を増やして、意見交換の機会を持つ。
授業項目は、基本的なものをベースにして、理解できていない場合は思い切って戻ることも必要だと考える。
話すことで自分の世界を確立、広げていく感覚を味わってほしい。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	馬場　敦子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

講師の入れ替えにより比較不可

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

当初基本的な知識を身につけさせることを目標としてスタートしたが、実際に学生たちに接してみると卒業後の具体的な言語的ニーズに沿った授業の必要性を実感することになった。
８コマという限られた時間を割り直し、実戦的な授業を行うこととした。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

上記の計画変更に伴い、実際の現場で直面する場面を設定し、発言、文面などをロールプレイング的に作成させる授業を行った。
例　24Ｓ‥学校現場で給食に異物混入事故があった時の対応と事実確認、配慮事項、報告文書をセットで学習
　　24Ｙ‥保育園で児童のアレルギー反応が出た時の保護者への報告と来園依頼の電話、報告文書(日誌)への記述をセットで学習

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

実際の危機的な場面でどういう言葉を選び、配慮するかの実戦的な学習は非常に効果的であり、そのための発音発声、事実に即した記述法などの基本的な知識の必要性をわからせることができたと感じている。
今年度は探り探りの授業であったので、次年度に向けて最初から方針を打ち出し８コマを組み立てることが有効だと考える。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語表現法	24S	必修	27	84.9	3	10.7%	23	82.1%	2	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
国語表現法	24Y	必修	62	85.1	10	16.1%	43	69.4%	9	14.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
国語表現法	24S	4.6	4.6	4.5	3.8	31.1分	4.7
国語表現法	24Y	4.6	4.7	4.7	3.6	38.9分	4.7

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

現場を想定した自己紹介を工夫させた。例えば24Sはそれぞれが希望する職場での職員に向けてのもの、24Yは幼児教育現場での着任挨拶を想定し、対象児童と保護者とそれぞれに向けてのものである。クラスメートを対象に見立て教卓の前で発表し相互評価を行った。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

上記の課題をもとに、実際の現場で直面する出来事をリアルに想定させ、その際必要とする言語知識、言語技術を、８コマのなかで効率的に組み立てて授業を行うこととする。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	宮﨑　美保

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

昨年度の授業評価報告書では、実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考え、さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるような授業を行うことが課題にあがっていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1)学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。
(2)意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。
(3)アダプテーションゲームを取り入れて実技をもっと楽しめるようにする。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

（１）コミュニケーションを取れるように導き、楽しんで活動していける環境づくりをした。
（２）実技科目活動内容をわかりやすく習得しやすくするために段階的項目を設定した。さらに目標を各グループで決めて、目標達成するためにどうすればいいか工夫して活動するようにした。授業の終わりに自己評価するようにさせた。
（３）活動意欲が沸くような課題を出したり、特に苦手な実技科目に対して意欲の低い学生には、動きの分析をしてわかりやすい説明・実技指導をしながら、一緒に楽しみながら課題克服を目指した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度は、まず楽しい環境作りができるように、自己紹介タイムを取り、クループのメンバーの名前を覚え呼び合えるような課題目標を設定した。1回目の授業からコミュニケーションを上手に取ることができ、意欲的に楽しみながら取り組む学生が多く見られた。生涯スポーツAは、多くのスポーツを実践し、グループ活動を増やした結果、学生同士がお互いに教え合いながら習得をしていく姿も見ら自ら工夫して活動できるようになった。学習記録で目標を決めさせることでより活動意欲高まり、授業終わりに活動の振り返りをし自己反省をすることで次の授業の意欲につながった。1人1人にコメントを書くことでより良いアドバイスをすることもでき、学生ともさらにコミュニケーションが取れるようになった。アンケートの意見・感想の中に運動が苦手な学生が楽しくやれたとあり、授業改善・取り組みが少しずつ良い結果がでてきた。さらにアダプテーションゲームを取り入れて苦手な学生ももっと楽しめる工夫をしたい。学生の理解度が他の項目より低い結果になっていたのでさらに解りやすく説明して理解度を上げていきたい。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生涯スポーツＡ	24S	選択	24	70.7	0	0.0%	4	16.7%	16	66.7%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
生涯スポーツＡ	24L	選択	9	79.9	0	0.0%	6	66.7%	3	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
生涯スポーツＡ	24S	4.7	4.7	4.6	3.9	11.7分	4.7
生涯スポーツＡ	24L	5.0	5.0	4.9	4.0	3.0分	4.8

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

学習記録をチェックすることで上手くコミュニケーションが取れないで困っていることに気づき、実技中もその学生が所属するグループを気がけて活動を見守ることができ声かけなどで導くことができた。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1)学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。
(2)意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。
(3)アダプテーションゲームを取り入れて実技をもっと楽しめるようにする。
(4)学生の理解度を上げ、よりよい活動やスムーズな実技習得できるようにする。

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	吉井　学

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

昨年度の授業評価報告書では学生の理解できるスピードで講義を行うことが課題にあった。また、話すスピードも遅くするよう課題に上がっていた。▪
今年度は話すスピードを遅くするように心がけ、学生に対して理解出来たかを質問しながら授業を進めた。
生化学科目においてはやや向上したと思われる。　公衆衛生学科目では２３Lの対象者の６２％がS評価であった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

生化学では話すスピードを遅くする。質問はいつでも受けるようにする。　毎回の授業において学生の理解度を改善する目的で講義の内容について質問や聞き取れなかった事柄について質問票を記載してもらい回収後、次回の授業で詳しい説明を行うようにすることを継続する。。▪

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

生化学では話すスピードを遅くし、質問を促す講義を行った。また、メールによる質問はいつでも受け付けるようにして学習機会を促した。公衆衛生学では２学科の合同であり、秘書課の学生においては初めての文言も多いと考えれるため教科書にある文言を詳細に説明しながら講義を進めた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

授業ごとに記載してもらったQ&Aの効果が見受けられた。今後も継続するとともにメール等による質疑応答の機会を効率よく実施する。▪

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
公衆衛生学	23S	選択	33	73.4	4	12.1%	5	15.2%	10	30.3%	14	42.4%	0	0.0%	0	0.0%
生化学Ⅱ	23S	選択	33	76.8	8	24.2%	4	12.1%	8	24.2%	13	39.4%	0	0.0%	0	0.0%
公衆衛生学	23L	選択	8	87.0	5	62.5%	2	25.0%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
公衆衛生学	23S	4.2	4.2	4.6	3.3	80.6分	4.0
生化学Ⅱ	23S	4.0	4.0	4.4	3.3	96.6分	3.8
公衆衛生学	23L	4.1	4.5	4.4	4.0	56.3分	4.1

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

学生が自宅で学習しやすくする目的でメールを利用した質問に対して即刻返答することで学習意欲を高めるようにした。▪

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

事前に教科書を読まない学生や科学用語に疎い学生のために授業後に補習による対応をする。▪

令和　6　年度　前　期　授業評価報告書	氏名	吉田　高文

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度の全体的な満足度は3.6、授業外学修時間も57.0分で、理解が不十分な学生がいた。どうしても高校で簿記を学習した学生と普通科で簿記を学習してこなかった学生とでは、理解の度合いに差が生じる。簿記の専門用語をはじめ、まず基本的内容を十分に理解できるよう反復学習をすすめていきたい。また、これまでと同様に、簿記既習者に対しては、中級レベル（日商検定試験）の内容も意識した授業展開を行っていく。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

科目名「簿記会計学１」では、前年度に引き続き以下の4つの目標を掲げた。
1. 複式簿記の構造を理解する。
2. 簡単な財務諸表を作成できる。
3. 商業簿記と工業簿記の違いを理解する。
4. 日本商工会議所簿記検定試験3級の取得を目指す。

また、引き続き授業外学修ができるように、教員が開発したマイクロラーニング教材を提供した。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

科目名「簿記会計学１」では、商業簿記を中心に、日商簿記検定試験3級程度の内容理解を進める授業を行った。また、簿記既習者にも配慮して、2級の内容である工業簿記や原価計算の基礎についても説明した。活動内容・方法は以下の通りである。まず説明プリントと練習問題のプリントを配布し、必要なつど電卓を貸し出して計算させながら授業を進めた。練習問題のプリントは毎授業後回収し、理解度を確認後、翌週に一部添削して返却した。さらに、欠席した学生には、次週にプリントを配布して理解度を確認させながら授業を進めた。授業外学修においては、教員が作成した「10分でわかる」マイクロラーニング教材を使用した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

前年度に比べて、学生の学習意欲や全体的な満足度は改善された。（学生の学習意欲前年度4.3→今年度4.6、全体的な満足度前年度3.6→今年度4.5）成績の分布も悪くなく、全体として良くできていた印象がある。
一方、高校で簿記を学習した既習者にとっては、とくに前半の授業はやや簡単であったかもしれない。今後も引き続き簿記の既習者と初習者との学修格差を意識しながら、授業の進め方や教材を工夫していく必要がある。

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
簿記会計学１	24L	必修	13	90.3	7	53.8%	4	30.8%	2	15.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
簿記会計学１	24L	4.5	4.2	4.6	3.8	53.6分	4.5

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングではないが、科目名「簿記会計学１」では、教員による一方向的な講義ではなく、学生に電卓で計算しながら問題を解かせるように進めた。
オフィスアワーについては、規程どおり設けて、授業終了後の教室や非常勤講師控室で学生からの質問を受け付けた。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

科目名「簿記会計学1」では、学習水準を維持しながら学生の理解度を高める上で以下の3点を次年度の目標とする。
（1）今年度に引き続き、科目名「簿記会計学Ⅰ」では日本商工会議所簿記検定試験3級の受検を念頭に置きながら授業を進めていく。
（2）高校で商業を学んだ学生と普通科の学生とでは、学習開始時点ですでに差がついている。そこで、授業の進め方や教材を工夫しながら、既習者と初習者のそれぞれに満足できるような授業を目指す。
（3）マイクロラーニング教材を提供し、授業外学修をサポートする。